大正七年七月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百四十二號

婦人衛生雜誌

第三百四十二號目次

謹告

來る八月及び九月の兩月は本會規則に依り例年の通り例會相休み申候也
暑中特に會員諸姉の御健康を祈る

大正七年七月

私立大日本婦人衞生會

●會　告●

●前半期會費未納の御方は何卒本年十二月迄の前金相添へ此際本會事務所へ宛御送金被下度候

●前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて本郷區駒込郵便局へ御振出しを乞ふ

講演

人と自然

高島平三郎

私は衛生の事が專門でございませぬし、實は斯う云ふ席へ出てお話するのは御辭退致したのでございます。尤も前回にも一度私の專門に關する話で良いから特別として願ふと云ふことで出たことがございますが、此度は急に講師に差支が出來て餘程お困りになつたものと見え、莊司氏が私の所に三遍もお出でになつたり電話が掛つて來たりして遂に私も御辭退することが出來ずしてお引受け致したやうな次第であります。さう云ふ譯で伺つたのは二三日前ですから準備も一向出來て居りませぬので、ほんの思附いた點だけを申上げて置きますが、多少衛生の上にも關係があらうかと考へて居ります。私は斯う云ふ時にはなるだけ廣い題を選びまして『人と自然』と云ふ題を出して置きました。

人は自然の子供で、自然の中に生れて、自然の中で育つて、さうして復自然の中に入つて行くのであります。其處で人間はどうしても自然界から離れることが出來ないので、自然から始終刺戟を受けなくちやならない、何の學者の說を見ても矢張り自然界から到底離れることが出來ないと云ふて居る。獨立して居るやうに見ゆる精神の作用も間接には自然界から影響されて來て居るのであります。夫等の事は誰も知つて居る事でありますから、今少しく人間が自然界から、いろ／＼襲はれて居ることに就いての事實を多少順序立つてお話致して見たいと思ひま

す。

第一に人は社會として生活する者であると云ふ、是は申すまでもなくアリストートルの申しました如く人間は社會的の動物であるが、人間に限り社會を造つて居るかと云ふと他の動物にも幾らもあるが人間に於て最も發達して居る。其人間の造る社會が大變に自然から制限を受けて居る。第一に此社會を結合して人間が國を造るとか或は一つの國を聯合した大きな團體を造るとか云ふやうに、社會を造つて行くのに土地の有樣からして人間は大變な制限を受けて居りまして、山の多い處であつて、人間が住まふ平地の少くないやうな國では大きな社會を造ることが到底出來ない。團體を造るにしても極く小さなもので、山と谷との間に、少しづゝの小さな團體を造つて居るのでお互に一致しない。之を大きな廣い歐羅巴の大陸とか亞細亞の大陸とか云ふやうな社會の有樣から比較して考へて見ても解る。又日本の信州のやうな所を考へて見ても、山が澤山あつて平地の少ないと云ふことは人間が發達し惡くなつて居るのである。それに反して平野——廣い野の澤山ある所は交通に都合が好くて發展して行くことが出來るからして大きな社會が出來る。故に人間の社會が出來て段々進んで來ると、どうしても山の中に居たくも居られない。それであるから平野が有つて始めて國が開ける、日本でも天下に命令する大都會は皆平野に位置して進んだものである。先づ第一に人間が生存して行く社會を造るには自然から制限を受けて居る、自然に從はなければ社會が出來て行かないのであります。

それから又其地形に從つて團體を造つてお互に一致結合して生存するとしても、生活の有樣と云ふものが平野の人も山間に住んで居る人も亦高原に住んで居る人も皆同樣に生活することは出來ない。職業はそれ故に各々異つて居る、例へば高原或は山の上に住まつて居る彼の西藏のやうな處の者は牧畜を業として居つて、農業などは爲ることが出來ない。多少

は出來ないこともないが、それを以つて生活することは出來ない。家畜を飼つて家畜から食物も飲料も採る、牛だの山羊だのゝやうに家畜から乳を採つたり或は焚物なぞまでも其排泄物から出る物を用ひて居る。さう云ふ風に高原なら牧畜を行るとか平地なら農業を行るとか云ふ樣に生活狀態が違つて居る。で農業は皆平野の澤山な所から發達して來たのであるであるから大農國と云ふ、殊に亞米利加或は濠太利亞、中央歐羅巴に致しましても、平野の有る所は總て產業が發達すると云ふ事は言ふまでもないことであります。

それから又商業は河とか海とか自然の交通に便なるものがなければ發達しない。是は皆さん此會でも御研究にもなり、又お聽きにもなることでせうが、衛生と云ふことに皆關係を有して居つて、人間の生活上、職業の上に於て交通に因つていろ〳〵の病氣なぞが傳播することが著しいのである。後にもお話致しますが、是は大變な關係の有ることであります。兎も角斯くの如く自然界から人間の生活狀態が制限されて、其制限に依つて商賣が發達することが出來、海岸に於て農業が發達することは出來ない、必ず平原に於ける農業、海岸に於ける商業、高原に於ける牧畜と云ふことになるのであります。そこで勿論段々知識も發達し、科學も進んで參つたから、多少之に反することが出來るやうになりましたけれども、併し根柢は必ずさうである。

それから又人文の發達――一體文化が進むと云ふ事柄が矢張り自然から制限されて、只今申した如く文化の發達も圖れるのであるが、一體人間の初めて開け出しました所は何處も皆河がございまして、廣い土地のある所から人間は開け出したので、一番初めに開け出したのは、皆さんもお習ひのことでございませうけれども、今日の學者がメソポタミヤの平原即ちチグリス、ユーフレッド流域の平原が、一番人間が早く開けたと申して居ります。さう云ふ平原地は何處にも人間の繁殖が出來まして幾千年の今日

に於ても尚ほさうであります。それ故に又それに伴ふ病原菌なども其處等にはいろ〳〵繁殖しまして殆んど病氣の巣であるとまで言はれて居る位に、種々の傳染病なぞも大概彼の土地から出て來ると云ふ有様でありますが、之はいろ〳〵な惡るい動植物卽ち黴菌とか「アミーバ」とか云ふやうな媒介物が澤山居りまして皆困つて居ると云ふ風でありますが、何にしろ彼處が一番初めて人類の繁殖した所であります。それから又埃及も早く開けましたが、彼處は御承知の通りナイル河があつて交通を助けて居りますし、印度は御承知のガンヂス河があり、尚ほ其他大きな河があつて交通を助けて居る。病氣も今日ではメソポタミヤの平原よりも印度などから「コレラ」印度「コレラ」とも云ふ位に、何處かの地方に其病氣が遺つて居つて或時を以て繁殖して行きますので、感心した話ではありませぬが、何しろ能く開けた國であるけれども、病氣の傳播にも發達して居ります。

それから古く開けた國で支那文化は河の流域に從つて——楊子江の流域に從つて段々入つて來たのであつて、支那の歷史を調べて見ましても西藏から一方は段々西の方へ行つてペルシヤ、カルタゴ、埃及の方へと擴がつて行き、一方は楊子江を下つて東に發達して來たのであります。で初めは東洋の文明も西洋の文明も一ヶ所で發達して居つた。それが廻り廻り〳〵て方々に行つたのであります。ペルリが船に乘つて東洋の日本に來て握手したと云ふ風に、それに因つて今日の文明を來したと云ふやうな譯であつて、人類學上から言ふと人類は皆一つであつて、吾吾の子供の時に習つたのは世界の人種は五種類あると云ふたのですが、今日の人類學から申せば皆一つで、唯色が異つたりして居るばかりで、人種としての區別ではないと申して居ります。果してさうであるか否かと云ふと、地球を廻つて行けば復元の處に歸つて來ると云ふ事に依つても分るのである。

斯う云ふ風に人文が發達するには河があることが非常に大切である。それから後には大なる海をも越

ゆることが出來るやうになつて、段々と知識が進むに從つて航海の術も進んで、海を越えて他處に移つて行くと云ふ有樣になつて來たのであつて、何うしても海運の都合が好い所でなければ人類が繁殖することが出來ない。又それと共に海岸線の非常に長い――地理で御承知でせうが、海岸線の長さで其國の文明の度が解ると云ふ位に言はれて居る。それで此海岸線の少しも出入りがなくつて眞直な海岸ではいけない。さう云ふ處には良い港がない。此港の資格に就てもいろ／＼な事が研究されて居りまして、詰り日當の良い即ち東南を受けて日が能く當る所で、さうして船舶が入れるだけの一定の水の深さがあると云ふことが必要であります。是は地理で見ても能く解ることで、いろ／＼の條件があつて、日當りの宜い、海岸線の出入の多いと云ふことが人間の發達を助けると云ふことになるので、港の良いのが無ければ人間が發達は出來ない。殊に昔などは出來ない是と共に又人間が大變制限を受けて始終絶えず影響されて居ることが澤山ある。それはなんであるかと云ふと即ち氣候であつて、氣候は殆んど如何なる國でも人間に影響を致しまして、例へば人間が繁殖するには極めて簡單なる生活の出來る所でなければ人間が生活することは出來ない。御承知の如く人間は其始め獸と同樣に全身に毛が生へて居つたもので、今でも子供の時は――まだ母の胎内に居る時は毛が生へて居る。さう云ふ風な階級を繰返して來る、あらゆる生物の階級を繰返して人間になるのである。體中毛が生へてゐて、それが段々脱れて來る。だから生れた際は生毛が餘程深く生へて居る。胎内にある時は生毛が深く生えて居つたのが、胎外に出てから後に遺つて居るのは、頭に生毛が澤山生へて居るやうに體を護るに必要な部分だけに毛が遺つて居るのである。是等を見ても或時代は毛が生えて生れた時代があつて、頭だけでなく體にも毛が生へて居つたかも知れぬ。それが段々進化した結果變つて必要の部分だけ毛が殘つて居るといふ風になつて來たので、

人間が若し此毛が全然無かつたならば絶えず氣候の影響を受けなくちやならぬのであつて、此氣候の影響を受けても簡單に避けられるやうな所でなければ人間が繁殖しない。それだから人間の初めて繁殖した所は熱帶地方であつて、此亞細亞の熱帶なぞでは暑いから著物を著る必要もなく、又食物も豐かで、其「パン」も容易く食べるやうに「パン」の實と云ふやうな物があつて生活が出來る。さう云ふ風に耕さずして食物も食べられると云ふ風であるから簡單に生活が出來るのであります。

初め人間の出來た時は、所謂猿の階級から人間の階級に進んで、もと這つて居つたのが起つて見て、それが段々癖が附いて今度は立つて歩くやうになつた、それが卽ち人間の本であらうと申して居りますが、果して人間も元は這つて步るいたに違ひない。それは人間の體の構造を見ると横になつて居る。內臟機關なぞも這つて歩くのに位置が都合好く出來て居つたのが、段々立つて步くやうになつたので、此脊骨に以て行つて何んでも重さが懸つて來るやうになつたから、心臟なぞも横の方に行つたのかも知れない、あれが這つて居たら中央にあつたのかも知れない。心臟は大概の人は左にあるべきものですが、偶には少し右の方に寄り過ぎて居たりするやうな人もある。總てさう云ふ風に體の機關がいろ〳〵入代つた人なぞがある。だから病によつて故障が起ると全體の內臟が弛んで來て下の方に下がると云ふやうなこともある。能く御婦人方が長く立つて居ると――御婦人の機關は男子と異つて非常に重い、其重いのを始終持つて歩るいて居られるのですから、自然故障も起るのであつて、能く小學校なぞで女生徒を三十分間もぢつとして立たして置くとバタ〳〵倒れることがある、側の人は大變に驚いて心配するが、水でも飮ませれば直ぐ癒ると云ふやうな事がある、そんな事をするよりは寧ろ初めから椅子でも上げればさう云ふ弊害は起らないで濟むのです、だから御婦人に椅子を上げると云ふのは婦人を尊敬する爲め

のみするのではなくて、生理上自然の必要から出たのであります。これは寧ろ男の方に言ふべき所ですが、さう云ふ意味から婦人には席を譲づるのです。是は何れ機會があつたら申さうと思つて居りすが、此處には未來の教育者たる高等師範の學生方が多く來てお出ですから、若い女生徒方の爲めにも御注意にならなければなるまいかと存じます。

で人間は動物階級時代は熱帶に於て發達して居つたのであるが、今のやうに段々立つて歩くやうになつて、それから手が自由になつて來て、いろ〳〵な動作もするやうになると同時に腦も發達して行くので、段々と異つた所に行つて自分を保護して生存することが出來、熱帶の者が寒帶にも行き又温帶にも行くと云ふ風になつて來たので、寒い所でも大なる發展を爲すことが出來、北極探檢とか云ふやうな事までも致すやうになり、あゝ云ふ所に行つても能く發達することが出來るやうになつたのであります。

でどうしても文明國は丁度此四季の氣候の變化がある所が一番人間が發達する、其代り病氣も多く出來る。人類が一番早く繁殖した熱帶地方はいろ〳〵な病氣も澤山にあつて殆んど病氣の淵叢であるとまで言はれて居るのですが、それも昔は簡單であつて人も少なかつたし、病氣の種類も少なかつたからで、今日のやうにいろ〳〵交通が開けて温帶から寒帶、寒帶から熱帶と自由に移り歩くことが出來るやうになつたのでそれが爲めに病氣の種類も擴がつて來たのである。熱帶は人間の爲めに樂天地であるが、それが却て人を墮落させるので發達しないことになる。昔から氣候は人間の精神に非常に影響すると云ふことはいろ〳〵の學者が研究して種々な説を述べて居ります。希臘の醫聖と呼ばれたヒポクラテスと云ふ人なども年中變らない氣候は人を懶惰に導き、變化のある氣候は努力に耐へしめる、努力心を與へると云ふことを申して居ります。

故に氣候が熱くもなく寒くもなく始終同じ温度にして置と云ふことは如何にも理想的の樣であります

が、氣候が單調なれば人間を横著にして仕舞ふ。病氣の時は仕方なく、お醫者がやれ何の位の溫度を保たせなければいけないとか、あまり乾燥しないやうに適當の濕氣を保たせて置かなければいかぬと云ふやうな所から、さう云ふ風にして其中に病人を入れて置く、だから病人は何時も南山に寒暑なしと云ふ工合に始終蒲團を掛けて臥て居るから暑くもなく寒くもない、何時も變らぬが、普通の人を何時もさうして行つたら、子供などは後に役に立たない體にさして仕舞ふ。某金滿家が、阿母さんの部屋は冬は驗溫器で計つて六十度なら六十度と云ふ風にして寒くないやうにし、夏は冷藏庫から始終冷たい空氣を送くるやうにして置き、さう云ふ風に冬は「スチーム」で丁度好い加減に室内を溫めて置くと云ふやうにしましたが、一寸でも阿母さんが外に出ると直ぐ風を引いて困つたと云ふことであります。外の空氣は年を取つて居る人に對しても、ちやんと驗溫器で測つたやうな譯には行かない、だから大變親孝行のやうでも阿母さんはそれが爲めに却て外に出ると風ばかり引いて居ると云ふやうな譯で、幾ら富豪でも空氣ばかりは驗溫器で測つた室内の溫度と同じ位な空氣を持て歩くと云ふことは出來ない、それは常にさう云ふ風にして置くから、一寸躓いたら病氣に抵抗力が弱くなつて來て居るので直にやられるのである。それと同じ様に年中變化の無い氣候の所にばかり居ると自然怠けて奮發心が起らないから、遂に働けなくなつて仕舞ふ。アリストートルは斯う云ふことを申して居ります。寒帶地方の人と云ふ者は活潑の精神に富んで居るから事を爲すのに活潑であり、溫帶地方の人は知識に於て優つて居ると言つて居りますが、是は大體に於て寒い所は人が緊まつて居る、精神も身體も共に引緊まつて強い、それは其寒い所に抵抗して生活して行かなければならぬから自然氣性も活潑で勇氣にも富んで居る。溫かい方は智慧想像力に富んで居る。であるから氣候が段々暖くなつて來ると非常に想像力が旺盛になる。記憶とか推理と

か云ふ事も大變加はつて來る。小說なぞを讀んでも平素は餘程考へなくちやならぬやうな事でも、夏であると直ぐ解る。又書くことにしてもいろ〳〵な空想が湧いて來るから都合が好い。さう云ふ意味に於て溫かい處の者は知識の點に於て優つて居るのであります。支那では北方の强いと云ふことを申しますが、中央支那を保持して居つた者は、何時でも此の北方の者に對し大變にそれを恐れて居ります。此間まで天子となつて居つた彼の淸朝の先祖、愛親覺羅氏なども北から起つて來たのでありまして、氣候の寒い所はどうしても人間が强いのであります。

斯くの如く知識も病氣も皆氣候に大變な關係があつて、犯罪なども大變氣候に因つて異つて居ります。大體氣候の暑くなるに從つて罪が多い、尤も强盜などは冬も大分ありますが、槪して夏の方が犯罪者が多いので、夏は人體に關した罪が多い。是は何處の國でも氣節に因つて罪の種類が違つて來る。でどうも氣候の暑い時には人體に關した罪が多いと云ふのは暑いと、自然人間の體に忍耐力が乏しくなるから直ぐに喧嘩をしたり、人を殺したりするやうになる。又人の財産を取のも夏は自然開放されてあるから、物を盜るにも都合が好いから、常にさう云ふ傾向のある者は直ぐにそれを持つて行くと云ふやうな事が多くなる。大きな盜賊などは却て冬の方が爲易くつて强盜なぞを爲る、又さう云ふ者は寒くつても自分が生存をしやうとするには人の物を取らなければならないから命を懸ても惡い事をする、であるから冬よりは夏は小さな罪が澤山ある。自殺も夏が非常に多いのであります。日本で年々約一萬一千人の人が自殺して居りますが、其自殺者の中には病氣を悲觀して死ぬ者もある、自分は病氣で生きて居ても仕方がないと云ふて悲觀して自殺する者とか、又大切な親が病氣であるとか或は子供とか妻とか夫とかさう云ふ者の事を悲觀して死ぬ者もあり、又失戀であるとか、後悔であるとか云ふやうな理由で死んで居るのもある。さう云ふ者を四季に依つて別けて見ると

何時も典型的に起つて居る、大概三月――三月はまだ少いが四月から五月、六月、七月――七月が一番多く、八月になつて少しく減つて九月十月と少くなり、十一月、十二月、一月が一番人が死んだりするのが少ない。斯う云ふ風に氣候が段々と人の心に影響を與へて道德或は法律上の罪を犯すと云ふやうな事までも定まつて來るのであります。

それから病氣は御承知のやうに大變氣候に關係して居るもので「コレラ」なぞは冬になれば大概絶える、何故流行らないかと言ふと黴菌の繁殖力が減つて活動が少くなるからである。だけれども熱い所なぞでは生遺つて居る。「コレラ」なぞの黴菌が繁殖して傳染ると云ふのは溫かい時が多い、勿論「チフス」のやうな寒くても來る病氣もありますけれども、黴菌の繁殖には大概熱と濕氣とが必要であるから、夏に於て一番病氣も多く來るのであります。

氣候が斯くの如く關係して來て居りますが水が又大變に關係を有して居る。人間は良い水の豐富にある土地でなければ充分に發達することが出來ない。だから支那のやうな水の濁つた所は非常に良い水を珍重して、何處には良き泉があるとか云ふやうなことが書物にまで載つて居る位で、其處へ態々汲みに行く、千里を遠しとせずして汲みに行くのである。日本ではあまり水に就ての注意を拂はないで濟んだと云ふのは、日本は誠に斯う云ふ點に於ては幸福で、御承知の脊梁山脈が斜面になつてゐて、其下に住むで居るから、山から滴れて來る地下水で何處を掘つても清水が在る。今はさうは行かない、人家が多くなるに從つていろ〳〵水の性質に就いて調て、惡いとか良いとか云ふやうな大變八ケましくなつて來て居つて、東京の水ならば殆んど黴菌の侵入しない水はない位に惡るい水になつて仕舞つたのであるが、前にも申した通り支那なぞはなか〳〵日本のやうには行かない、何處を掘つても水が出ると云ふ譯には行かない、良い水脈のある處でなければ滿足な清い水は獲ることが出來ない。さう云ふ事は理窟では解

らないもので、私共が實際に當つて不思議に思つて居るのは彼の御殿場に私は少しく地面を持つて居りますが、其處へ夏行きました時に調べた事がある。御殿場は御承知の如く富士の裾の方ですから、普通の地面よりは大變高くなつて居る所でありますが、それにも拘はらず大變水がしゆく／＼出て居つて何を爲ることも出來ないやうな所がある。さうかと思ふとまるで水の無いやうなカラ／＼の所もある。で向ふの人は一寸見ても解る。私のやうな素人でも此處は水の通つて居る所だなと云ふ事が判る位で、水と云ふものは大概通る徑があります。で大體日本のやうになつて居れば、何處でも水脈が通つて居るからして直ぐ水も出ますけれども、其水が良くないと人間の生活に都合が惡るいのであつて、顏色から皮膚の狀態などが餘程水に關係するやうに思はれる。日本にも昔から美人系なるものがあつて、木曾の山中や京都の加茂川の沿岸、秋田の御物川などの附近は美人系と言はれて、彼の邊の人は綺麗で、色が白くて如何にも白色人種のやうに美しい色艶をして居る斯う云ふ風に水の良い所はあんな山の中でありますけれども美人を出すのです。殊に美人と云ふと女の人のみを指すやうになつて居りますが男でも美人は美人なのです。丁度英吉利の「マン」と云ふのが人と云ふのと同じく、日本では美人は女を總稱して居る。斯う云ふやうに加茂川の水が美人を生産すると昔から言つて居りますが、是は化學的に調べたのではないから存外他に原因があるかも知れない。併し何にしろ水の良いと云ふことは生存上必要なことであつて、從つて唯飲料水とか云ふことだけでなく、水が空氣に關係して居ると云ふことが影響する。空氣の中に濕氣が少なくなつて、詰り空氣が乾き過ぎると能く肺などが創れて來たり、種々な病氣が其爲めに起つたりすると云ふやうな事が澤山ある。又衞生上から言ふとあまり濕氣の多過ぎると云ふのもいろいろな傳染病を媒介したり、それから又第一に精神に惡るい感じを與へる、詰り不愉快になる。濕氣が

多過ぎると頭が重く、自然因循になつて恰度天上の雲の中にでも居るかのやうな感じが概して致します雨量の比較的少い、空氣の適度に乾いて居る所から活潑な進取的の人間が出るので、支那の北方の強など云ふ事も此處等から起つたことで、北の方は空氣が乾いて居るから、さう云ふ所から自然強い人間が出て來るのである、日本も矢張りさうである、世界の何處の人種でも比較的空氣の乾いた土地から大なる非常に強い人間を出して居る。獨逸の強い原因もそれだらうと思ひます。一樣には行きませぬが多くはさうである。日本でも雨量の少ない土地は中國山陽道、四國の沿岸等が一番少い、總て空氣の乾燥して居ると云ふことが活動進取の氣象に影響して居ります。近來廣島縣邊から人物があまり出ないで、九州あたりから寧ろ政治家で名高い人が出て、桂さんのやうな人だの、伊藤さんのやうな人――尤も伊藤さんは中國の萩で育つた人であるから其中に入らないかも知れないが、併し外國に行つて大きな商賣をして居ると云ふやうな人間は、活動進取の氣象に富んで小さい所で商賣して居る位なら南洋とか滿洲とか云ふやうな所に出掛けて行つて商賣をして見やうといふやうな者が澤山斯う云ふ土地から出て居る。是等は雨露濕氣が關係するのである。西洋の人が輕井澤を大變喜んで行くと云ふのも何の爲めであるかと云ふと、矢張り雨量の少い土地で育つた人が、日本に來て――日本は概して雨量が多いのですから、夏になると餘計に惡いので氣持が惡るいから比較的乾いた所にやつて行くので、輕井澤などもそれで悅ばれるのである。

それ故に空氣の良くないと云ふことは勿論のことでありますが、空氣の狀態が病氣に關係する事などは今私が申すまでもないことで、空氣療法と云つて結核の如きものには大變に效驗があります。「クレチニスム」と云ふスイッランドなどに多くある病氣で、子供などは俗に骨無しと云ふ、骨が軟らかくなつて仕舞ふ病氣があるがそんな病氣を治すのにも空氣療

法が大變良いので、其病氣をして居る者を空氣の良い所に連れて行くと自然癒る、結核などにも良いのである、それは昔から行はれて居つたけれども殊にさう云ふ事を研究した結果新らしい說を出して居る。病氣に因つて空氣の狀態ばかりでも癒ると云ふ位で、其位空氣と云ふものは人間に取つて大切なものであると云ふことは今私が申すまでもないことである。

それから其次に天產物――此天產物の出來ると云ふことは又人間に大變な影響を與へるものであつて第一に十九世紀から二十世紀に懸けて科學的、物質的文明を產んだ本と云ふものは實に鐵と石炭とであります。それに電氣が加はつて來て不思議なほど非常に今までになき時代の發達を促したのである。であるから鐵と石炭とが出る地方は非常に幸福で、日本が今日亞米利加に賴んで石炭を供給して吳れろと云ふて居るのも、亞米利加は澤山鐵が出る所があるからであります。一番多く石炭や鐵を出すのは英吉利と獨逸であつて、鐵が澤山出るから大きな仕事も出來るのである。日本のやうに餘り鐵の出ない國は此點に於て不幸である。であるから鐵の澤山出る國は發達に都合が好い。石炭は大分日本でも出る、殊に九州が澤山出る、東京や何かに居つたのでは物質的活動の有樣を見ることが殆んど出來ないのですが此程私は九州に旅行致しまして炭坑の盛んな樣子を見ましたが、日本の物質的發達も是位發達して居るかと云ふことが解ります。まあ鐵道の發達して居るのを見ても、東京などは遠く九州に及ばない、殊に福岡などは實に澤山で、山の頂でも「レール」が澤山出來て皆石炭の採掘を行つて居る。でさう云ふ非常に繁な所であるから、皆さんも新聞で御存知のやうな破廉恥の役人なども自然出るやうな機會が多いのであります。それは精神の病氣でありますが、身體の病氣もさうで、いろ〳〵複雜な流行病なども出來たりします。先年福岡縣に「コレラ」が大變流行つて、演習があつた時で陛下の行幸前の事ですから大變騷

いでとう〳〵撲滅したと云ふやうなこともありましたが交通が盛んになると自然惡るい病氣も出る。近頃は黴菌なども化學的の力でそれを撲殺して、命も救へるやうになつて來たのであります。天産物に富むと云ふことは鐵や石炭は勿論であるが、油とか大理石とか云ふ物の如きも皆さうである。英吉利が海王國になつて海の大きな支配をして獨逸に對抗して居るのも、それが一つの原因である。どうして英吉利があんな風になつたかと云ふと鐵、殊に石炭などを日本が態々あんな遠くから買つて來る。私が先年日露戰爭の時に佐世保を通つて見ましたが、軍艦に使ふ石炭が澤山積んである、實に其澤山な事は驚く程で、それは皆英吉利から來るので、斯くの如く多くの石炭を出すやうな國と云ふものは實に天惠の國であると思つた位である。其他鑛物ではアラスカが盛んに出す。カリホルニヤ、濠太利等でも燃料を澤山出すし、亞弗利加などでも金剛石、沙金が出ると云ふことが影響して居るのである。人文が發達すると云ふに於ても矢張り何か材料が無くては人間と云ふ者は何も仕事を爲ることは出來ない。希臘に於ても非常に立派な彫刻が出來て居りますが、今日進んだ醫學上から理想的の人體を考へて見ても、希臘のヴイナス位の像なぞは無い、外では斯う云ふ模範的な彫刻なぞは三千年後に見ることは出來ない位にちやんと理想的に立派な人間が出來て居る。それ程までに工業が發達して居る、希臘の人は、さう云ふ優秀な知識を有つて居つた上に、天産物として鑛物も出るが、一つは大理石の出る山がある。其山から大理石が始終採れるのであるから、今でも行つて見ると昔の大きな運動場の蹟、「アカデミック」や大きな花園のやうな物などが遺つて居る。其の後を人が掘出して壞はれた所を繕つて全部大理石で疊んだ廣い所が出來て居ると云ふことであります、是は勿論天賦の恩惠があつて、天産物が出ると云ふことは人間に非常な影響を與へるのであつて、日本でも幸にして全く出ないと云ふ程ではありませぬ、漸次少し

宛でも殖へて出るやうになつて、鑛油、石炭なども澤山出るやうになつて來ましたが、それが日本の發達にもなつて居るのであつて、要するに人と云ふ者は天產物に支配されて居る。天產物があれば之を發見し之を利用すると云ふことが考へられると云ふことは言ふ迄もなく、國の發達ばかりでなく人間の進歩にも關するのである。で單に鑛物ばかりでなく動物なぞもいろ／＼養つて肉を食べるとか、使ふと云ふことも相當の養成を要することであるが、さう云ふ動物に依て助けられると云ふことは、恰度蒙古の人が自分の富を誇るに牛が何匹、羊が何匹と勘定すると云ふやうに、人間が又さう云ふ動物に依らなければ富が出來ない。又それと共に動物が人間に害を爲して病原になるなぞと云ふことも澤山ある。「アミバー」と云ふやうな物が赤痢の病菌になるのもある。であるから病原にもなりませうし、亦人間の利益にもなります。近頃はいろ／＼病氣の有害寄生物なぞがあつて、田の畔にもうつかり出られないやうな事があつたりする、中國では「ボーナ」と云ふ害蟲がある、是は不思議な病氣で片山病と云ふて居りますが、草採りなぞが足なぞを螫されることそれが爲めに熱が出て大概死んで仕舞ふ。で其病原が近頃發見されたのですが、それなぞは田の中に入つて居るところの病原蟲が——小さな蟲が付いて其蟲が喰入ると云ふやうなことが解つて來たのである。或は蚤が鼠に付いて、それが人を螫して「ペスト」の媒介になり或は虱が發疹「チフス」の媒介になり、蚊が「マラリヤ」の媒介になる。斯う云ふ風に動物が人をいろいろ悦ばすと共に小さな物が又人間の生命をも傷ふと云ふやうなこともあります。詰り人間は或る意味に於て始終戰つて居る、佛蘭西の或學者は人間は始終戰をして居るのであると申しましたが、海にも陸にも彷徨つて、人を惱まさうと懸つて居るいろ／＼な事が影響する。それに抵抗して壞はされないと云ふこと、其壞はされない間は人間が生きて居るのでそれに負けて壞はされると死んで仕舞ふ。人間は外

界から侵されてさう云ふ動物か又植物が外界から攻撃して來る、それに抵抗が出來れば生きて居ることが出來る、其抵抗が出來ない人は死んで仕舞はなくちやならない。昔からの諺にも男は家を出ると七人の敵があると言はれて居りますが――女はどうですか。人間の敵が絶えず危害を與へるところの傾きがある。「アミバー」とか「ダニ」とか云ふ中間寄生物にしても、蚤にしても、蚊にしても、始終吾々を狙つて居るのであるから、弱ければ損である。さう云ふ物が來ても殺すやうな仕組が――詰り健全であれば勝つことが出來る、それ故に體を健康に保つて置くと云ふことは一番大切で、衞生會の精神は其處に在るので、病氣になつてから藥を飮むとか云ふやうなことは衞生會の主意でない。で段々衞生會が發達して行けばお醫者さんは要らなくなつて來る。お醫者さんが要ると云ふのは衞生を能く守ることが出來ないからです。是は本來の目的に反して居る。病氣を治すのはお醫者さんで、衞生會の目的は病氣にならぬやうにするのである。でお醫者さんには病氣を治す方のお醫者さんもあるし、病氣に罹らぬやうに研究するお醫者さんもある。

人間は又植物に大分の關係を有つて居りまして、外國人は肉を食べて居るが日本人は植物を食べて居る。又それが身體ばかりでなく精神界にも影響することは非常なもので、植物が無くなつて來ると人間の精神が變つて來る。斯くの如く植物は人の精神を柔らげ、人に美觀の念を與へる、知識に優美を聯想する感を與へると云ふことは非常なもので、私なぞは植物が無くては到底堪へられませぬ。植物が段々枯れて來ると云ふことは、なんだか自分の身内が無くなるやうな氣がしてならない。上野の公園に行くと大概老木が枯れて仕舞つて居る。あれは壽命が來て枯れるのだと云ひますが必ずしも壽命ばかりではありませぬ。で此植物が人間に非常な關係を有つて居ることは言ふまでもないことで、又此植物が人に害を爲す。黴菌と云ふ物もつまり植物であるが、い

ろいろ人間に害を爲る、又併し此黴菌と云ふ物は直ぐ害をする物ばかりかと云ふと、それは間違で、皆さんも御承知でせうが、御婦人に緣故の深い澤庵でも味噌でも醬油でも、男子の好む酒でも皆此黴菌が無かつたら出來ない。であるから黴菌もさう云ふ樣に人間に利益を與へて居ることもある。で兎も角も利害共に植物が關係を有つて居るのであります。

最後に唯斯う云ふやうに人間の體に直接間接に天然が影響して居るばかりでなく、人間の精神にも影響すると云ふことは非常に強いものであつて、人間の理想と云ふものも自然から導かれることが多い。是は衞生に取つて非常に大切な事で、衞生の本來の主義と道德とは違つたものではない。道德と精神と云ふものは理想に關係する。道德と云ふものは人間に取つて非常な大切なもので、何を爲るにもそれに歸著すると云ふことは申すまでもないことで眞善美の此の三つの理想と云ふものが根柢となつて、それが刺戟になつて働いて居る。皆さんが講演をお聽きになるのも何物か其中から眞理を發見しやうと思つて居らつしやると云ふことは、私が申すまでもないことであるが、兎も角も講演をお聽きになつて其中から眞理を發見しやうと思つて居られる。私共の申すやうな事は既に皆さんも御承知の事で、御聽かせするやうな眞理は無いかも知れませぬが、兎も角講演を聽かうと云ふ目的は其處に在るので、其眞理は自然界から始終與へられて居る。自然と云ふものは常に吾々に眞理を提供して吳れて、テニスンの詩にある如く、破れた壁の間に咲く花も、それを取るとこの小さな花の中にも葉もあり、幹もあり、根もある。併し此小さな破れ壁に生へたところの草の花の一本が何んであるかと云ふことを知るならば、神が何んであるか、人が何んであるかと云ふことが解る、と云ふやうな意味の有名な短かい一つの詩があります。私共には蔓の一つの眞理をも知ることが出來ないが、此自然界と云ふものは實に巧妙な、微妙なものであるとゲーテが申しました如く、自然の眞理と

云ふものは薔薇の花の綻びた中にも養はれる。人と接觸して怒るのも喜ぶのも、或は悲しむのも、人に感應性があるからで、小さな物からも大きな物からも眞理が出來て來る、一種の薔薇のやうな物でも人間社會の思ふ通り人間に深省を與へる。靜かな田舍に生れた者が都會の喧囂の間でも靜に落付いて自然に接觸して、泰然として自分が一つになつて考ると始て出る精神が眞を傳つて居る。是は西洋の學者ばかりでなく東洋の一番の宗教の根本になつて居る「誠は天の道なり」、天自然と云ふものは誠のものであると云ふ事を言つて居る。皆さん試に自然物を研究して御覽なさい、人間の作つた物には僞があるが、自然の造つた物には櫻の花一片を取て御覽になつても能く解る。斯くの如く自然と云ふものは人を欺かないのである、衞生の法則も其通りであつて、斯うなつて來ると人間の言ふ事も本統の事が解つて、藥を飲めば病氣は直ぐ癒されるが、併しまあ破はれぬ中から本を改良しやうと思つて來るやうになる。療法は概して對症の療法で、根本の療法は自然を良くせんければならぬ。近頃いろ〳〵迷信的のものが出來て來ましたが、人間に自然の解らない證據でありませうけれども、迷信に陷らぬやうにするには自然を對手にすれば良いので、又自然と云ふものは常に人に善を告ぐるものである。

一體獨逸は非常に優秀な地位の國であつて、天然自然が產みました山や森が澤山あつて無盡藏的に鐵が出る、其れが自然と工業等をも考へさすやうになつて居る。さう云ふ點から殆んど自然から精神界の事までも發達さして居るのである。儒教の主義なぞも天然自然の美と云ふことを以て道を說いて居る。孔子は常に天の事を言はれたのである。佛教もさうで、東坡の詩にも「溪聲便是廣長舌、山色豈非淸淨身」といふのがあります斯くの如く自然と云ふものはなんでもないが一度感興を催ほして考へると非常に尊い物を見出すのであります。斯く吾々が自然から教へられると云ふことは澤山ある。

私の友人に別に神とか佛とか云ふ物を一寸も信仰もしなかつたと云ふ人がありましたが、其人が或時富士山に登りましたところが、富士山の絶頂で朋友と別れて一人は甲州口の方に、一人は駿河の方にと別れて、たつた一人になつて富士山の上で自分を顧みた時に　實に言ひ知れない一種の悲哀な淋さを感じて覺えず淺間様の前に平伏してお辭儀をしたと云ふことで、其時の感想と云ふものは、自分は何の積りでお辭儀をしたのか全く解らないと云ふことでありました。それと同じにダルウィンと云ふ人は西洋でも無神論者と言はれて居つた人で、神は無いものだと云ふことを言て、どうしてもそれに心を寄せることが出來なかつたが、古來人跡の未だ入つたことのない大森林に這入つた時に思はず大地に平伏してオー神よと叫んだと云ふ有名な話がありますが、人は平素何んとも思つて居らぬやうな事でも時に依て自然巧妙に接するものである。私が或る時信州に參つて居りまして淺間山の麓に泊つたことがありますが、宿は淺間山の好い景色を眼の前に見る所で、其前には急流がありまして、其川の水は潺湲として音を湛えて居る。其處に水車が廻つて居ります。それは丁度夏の初でありましたが、一本の麥が能く熟して黄色になつて岩の間に搖られて居るのが見ゆる。それを私がゆくりなく眼に付いて、初は何でもない考へで居りましたが、此麥がさう云ふ急流の中であるから、育たずに流れて仕舞へば必ず朽ちて鳥に喙ばまれて仕舞つて居るのであるが、斯う云ふ流れの所であつてもそれに耐へてちやんと芽が出、穗が出來て黄色になつて居ると云ふことは、自分は今流されて既に碎かれると云ふ運命にありながら、斯んなに能く熟して居ると云ふことを考へて見ると、草木ですら自分の爲すべき事を爲して居る。若し是が人間ならば斯う云ふ事は非常に尊い態度と云はなければならぬと思ふた。馬鹿化た話のやうでありますが、如何にも尊むべきことで、自分の運命の眼前に迫れるのを泰然自若として自分の爲すべきを爲して居ると感

じたのであります。

英吉利の名高い詩人でバーナルウードと云ふ人が春の森の詩を書いたのがありますが、其の森が告ぐるところの教は吾人に聖賢が垂れた教よりもより多く告げて呉れると申して居ります。實際人は自然界の見方に依つては人間の書いた教訓よりもより多くの教訓を與へられるものである。

最後に自然と其美と云ふ事を申しますが、自然と美といふ事は、自然がどうしても美の根源であります。實に自然と云ふものは吾々に趣味を與へ、慰安を與へ、娯樂を與ふる非常な廣大な感化影響を與へるものであります。斯くの如く考へて參りますると、吾々は前に申したやうに自然の子たるを免れない。自然を征服すると云ふことは、是は自分が自然の力を以つて自然の力に代へるので、人間が自分でやるのではなく自然の力が人に入つて又一つの力を利用して行くのに違ひない。であるからお互に吾々は自然に進んで自然を愛護して行くには、衛生と云ふ事も努めて、能く自分の體を良くして、病氣を癒すにしても詰らない迷信などに陥らずして心を大自然の示すところに從つて行つて行くと云ふことが非常に大切な事であらうと思ひます。

叢談

醫藥と病氣

醫學士　福田得志

私共は身體の異和を感ずると先づ醫者の診察を受け、診斷が決定すると一定の處方に依りて藥を與へられる。藥を服用して居る内に病氣が段々と治つて來るのが普通であるが、中には藥を服んでも〳〵病氣が輕快しない許りか却つて増惡して終には不治の

病に陷ることもある。それかと思ふと、百姓や勞働者の間には、病氣になつても醫者にも診て貰はねば藥も用ひないで居つて、それで結句恢復して行く例も尠くないのみならず、世間には色々の素人療治なるものがあつて、多くは醫藥の服用の無效なるを難じて減食療法とか、精神療法とか、或は紅療法等を唱へて居る。然らば、抑も藥は效能があるのであらうか。この疑問に答へる爲に、私は先づ病氣の理由、病氣治癒の機轉竝に藥の作用に就て少しく述べて見よう。

凡そ人間の身體は、骨骼がその支柱となり、これに筋肉が附著し、外部は强靭なる皮膚に蔽はれ、內部には消化、呼吸、循環、排泄及び神經等の諸器官を包藏してゐるところの有機體であつて、以上の諸器官が互によく調和して働いて居るときに、この狀態を健康と稱し、若しこの調和が破れて變調が表はるればこれを病氣と呼ぶのである。この身體の變調、即ち病氣を起す所の原因は色々であるが、人間の身體は自個の防衛力或は抵抗力によりて、これ等の原因に打克ちて、常に調和を維持し、或は一旦破れたる調和を恢復しやうと努力して居る。この自然の力を吾人は自然の良能と呼ぶのである。

即ち人間の身體は或る程度までは、その自然の良能によりて、病氣を未發に防止し、或は一旦發したる病氣をも、恢復する働きを持つて居るものである、併し乍らその働きには限りがあるから、吾人は適當なる場合に適當なる治療法を施して、或は病原を除去し或は自然の良能を幇助して治癒機轉を促進しようとするわけである。而して藥は實にその療法の中で最も主要なる位置を占めて居る。若し藥が凡て病原を撲滅するの作用を有して居るものならば、その效果は實に絕大であつて、大いに感謝すべきものであらうが、不幸にして、吾人は斯の如き藥の數種を有するに過ぎない。例へば、熱帶地方、我が國の臺灣、九州南部に多い「マラリヤ」と云ふ病氣は一種の原蟲によりて起る熱性病であるが、これに對するキニーネの效能は實に驚くべきもので、この藥の服用

によりて「マラリヤ」は發熱が止む許りでなく、その病氣が全快するのであるが、これはキニーネが「マラリヤ」原蟲を人體内にても容易に撲滅することが出來るからである。又、黴毒に對する砒素（六〇六號は砒素を含めり）及び水銀の作用及び急性關節僂麻質斯に對するアスピリンの作用等も直接病原體に作用するものであるとせられてゐる。然るに以上の二三の特效藥の外は、殆んど凡ての藥は直接に原因に作用するものではなくて、唯病氣の結果として表はれたる色々の症狀に對して、姑息的に緩和するの手段であつて、これによりて、自然治癒の働きを補助しようとするものである。故にこれ等の藥を用ひて病氣が治癒しても、それは直接に藥の效能ではなくて、治癒を來したものは自然の良能に外ならない。

右に述べたる如く多くは藥の作用は症狀に對する作用で病氣の本態に觸れて居らないものであるが、然しその作用は決して無能ではない。例へば、こゝに腸窒扶斯の患者があるとする。その人の熱發は疾病の一症狀に過ぎないから、その熱を下熱せしむるによりて腸窒扶斯なる病氣の本態に作用して治癒機轉を促すといふことは元より不可能であらう。然し吾人が屢々經驗する如く持續せる高熱は患者の心臟を衰弱せしめ、これがために患者を失ふことが往々であるから、この場合に下熱劑を使用することは腸窒扶斯の疾患であるとなきとに拘はらず、差當り緊急なる處置である。かくの如くして心臟力を維持し、體力の消耗を防止して居る中に、身體の良能は作用し始めて遂に治癒機轉を全うするのである。かくの如き些細なる治療手段によりて人命を救治することの恰好なる實例を吾人は產科醫の所にて見るのである。產婦が胎兒を娩出するに當りて餘りに時間を要したり、又は臍帶が胎兒の頸に纏絡したりするために胎兒は一時窒息して生後直ちに呼吸を始むることが出來ずに所謂假死の狀態で生まるゝ事がある。この場合に若し醫師なり、產婆なりが相當の手當（發

啼術と云ふ)を施さなければ胎兒は無論そのまゝに常時に非らるゝより外はないのであるが、些かに數分の施術を實行すれば今迄假死に陷りし初生兒は容易に蘇生するのである。これは一二の例に過ぎないが、同じやうな事實には日常吾人の遭遇する所である。生命はあざなへる繩の如く或る部分は厚重であるが、他の部分は非薄で、將に縷々として盡きんとして居る時がある。この場合に些かに支持を與へて生命を擁護すれば再び無事安泰の期間が來るものでその將に盡きんとして盡きざる所で最も醫藥の靈驗を見るのである。之を要するに病氣は有機體の不調和であつて、之を癒すものは自然の良能である。藥は自然力の不足を補ふ許りで、常に自然良能が主で、藥は副である。然しそのために藥の價値は少しも減ずるものではなくて、これあるがために自然の良能はその働きを發揮することが出來る。それ故に今迄藥を服んでも病氣が治らない、と不平を云つた人も、藥で治つたと云つてた人も、或は藥を服まなくとも病氣は治ると云つてた人も皆誤りである、と云ふことを悟らなければならぬ。前者は藥萬能の他力信者であり、後者は藥無效の自然渇仰者であつて、共に自然良能と藥劑補助の精妙なる關係を忘れたるものである。

私は一人の患者を知つてゐる。その人は胃が惡いと云ふので始終**チアスターゼ**(消化素)を懷中に携帶し、食事が濟むと必ずこれを服用する。この患者は醫者の命令通りに不消化の食物を避けることも爲さなければ飲料を節減することもせず、病前と少しも變らぬ胃の不養生に耽り乍ら、これ等の不養生はすべて**チアスターゼ**と云ふ妙藥の作用で補ふて餘りあることゝ信じて居る。併しこれは藥の效能を過信した罪であつて、何時まで經つても胃病が治る筈はない斯の如く藥の效能を過信した人が、愈々**チアスターゼ**で胃病が一向に治らないことを悟つて來ると、今度は極端な藥不信任者と一變する。そして色々の素人療治の門を敲いて、偶々減食療法とでも云ふやう

なものに遭遇して胃病が治れば僥倖であるが、その外の色々な療法に手を換へ品を換へたとて却々治るものではない。そして止むを得ず再び醫師の許に歸り來つて治を乞ふ頃にはもう胃擴張とか、無酸症とか云ふやうな難症に陷つて居るやうなことは往々吾人の見る所である。

凡て病氣を治療するに當つては、その由來する所の原因を探求して、これを除去することが第一の處置でなければならぬ。例へば唯俗に胃病と云つてもその原因はいろ〳〵である。或は飲食物の不攝生から生ずるものもあれば、單に神經性のものもあり、或は齒牙が不完全で充分なる咀嚼が出來ないために胃の障碍を來したものもあつて、これ等に對して一概にヂアスターゼを用ひても到底眞の治癒を望むことは難かしい。それで不攝生に因するものには食養療法を講じ、或は減食又は絶食療法を講ずる必要があることもある。神經性のものに對しては精神及び身體の安靜を命じ色々の心配な事柄から遠けしめることが必要であり、又齒牙の惡いために起るものならば、これを治せば、胃病も從つて治るのである。原因が種々である許りでなく、同じ胃病と云つてもその種類は樣々であり、又同一の疾患であつてもその病氣の時期に依つて療法にも差異を生じて來る。例へば胃が惡いと云つて訴へて來る患者の中にも、胃中の酸類が過剩なのもあれば、これが缺乏してゐるのもあり、或は胃潰瘍と云つて胃に腫物が出來たのもあり、胃癌の如き新生物(瘤樣のもの)もある。この各々が大抵似通つた胃の症狀を起すので、すべて素人は胃病と呼んで居るが、實際の病理を探つて見ると全然別個の疾患であつて、各個特別の療法を必要として居るのは當然のことである。卽ち酸の過剩なるものには重曹の如きアルカリ劑が適應して居るが、酸缺乏症に對してはアルカリを用ふるのは不合理であつて、この場合はむしろ稀鹽酸が適應してゐる。

斯の如く種々ある療法の中から唯一つの適應せる

療法を選びて、これをその患者に處方するのはこれ良醫の職分である。吾人は醫者として、素人療治に用ふるが如き減食療法も、菜食療法も、精神療法も、抵抗療法も、裸體療法も、凡てこれを用ひてゐる。又、ある一部の醫師がそれより外に效果ある藥はないかのやうに揚言してゐる。沃度療法もカルシウム療法も、ツベルクリン療法も、凡てこれを用ひて居る。唯々異なる所は、素人療治がなす如くに、一法を以て萬病に當らず、萬法を以て萬病に臨むまでゞある。

或人が病理は醫學の哲學であると云つたが、誠にその通りで吾人は病理を知らなければ病氣の理由を知ることが出來ない。この筆法を以て云へば治療學は實に醫學の戰術であつて、これがなくては兵の操縱が出來ない。一法を以て萬病に當る所の素人療治は恰も、突貫一點張りの兵法の如く、到底進歩せる今日の時代には適合しない。今日の社會に適合するものは、萬法を以て萬病に臨み、醫學の哲理と戰術とに範りて行ふ所の醫術でなければならぬ。

血液の話

醫學士　淺田　一

御婦人方は每月一度づゝ血には御馴染である其外臺所では庖丁で怪我をしたり、裁縫の時に突き傷をしたりせられる機會が多いから我々男よりも血を見られることは多いやうに思はれる。

女學校で此の血を顯微鏡下に見たことのある御方は直に此の血は赤いけれども大きく廓大して見ると赤いものではない、黄色いもので液體の血漿と血球とから成つて居ることを思出されるに違ひない。

此の血漿は直に凝固するものでありまして此の性質あるが爲に血が出ても直に止まるのであります、此の凝固する性質の缺けて居る血を持つて居る人がありますが之は血友病と申しまして齒を拔かれても

此所からどし／＼血が出て遂に失血死に陷つてしまふといふ恐ろしいことになります、此の恐ろしい血友病は遺傳性のもので男に許り遺傳しまして御婦人方に餘り遺傳しないのは誠に御婦人方に取つて結構なことであります。

出た血を何か容器に取り暫く空中に放つて置きますと赤い血の塊と黄色な透明液とに分れます、此の塊は血球及凝固する性質のものでありまして黄色な液は血漿中より凝固物質のなくなつたもので血清と申します、御子達がさあ「ヂフテリヤ」といふと御醫者がすぐ樣注射しますのもやはり血清でありますがあれば「ヂフテリヤ」の毒を消す性質を有して居るものであります。

人間の身體の中には蟲樣突起だの、尾閭骨だの、耳を動かす筋肉だの進化の痕跡たるに止まり、現在何等の役をも勤めないものがないでもありませぬが其他の殆んど凡ては何一つ無くて善いものはありませぬ、取り分けて血と申すものは全身の臓器や筋肉、骨に至るでに平等に榮養分を與へる巡廻料理人でありまして同時に全身の至る所の不用物排泄物を取まとめて腎臓から排泄する下水又は汚穢屋でもあるのであります。

此の料理人兼汚穢屋は極めて規則正しく勤務して居るものでありまして一見一樣の赤い血ではありますが澤山な家族及雇人を持つて居り何れも仕事を分擔して居るのであります、即赤血球は主として肺臓で酸素を仕入れて之を全身に配達し其の空罎とでもいふべき炭酸瓦斯を擔つて肺臓に歸りこゝで再び酸素を詰めるのであります、白血球は一口に云へば白血球でありますが學者は之を幾種類にも分類して居ます、其の中には細菌だの異物だのを食つたりして掃除してまはる重大なる役目を持つて居るのもあります、其の數は常に殆んど一定不變でありまして一方ドン／＼こはれて行きますが他方骨髓の中などでドン／＼繰り出しますから其の數に増減を來しませぬ、かういふ有形成分と同樣に無形の血清其の

物に於きましても其の組成は殆んど不變でありまして偶々異常が起り、異物が侵入することがあつたならば直に之を除かうと努めて居ります、此の無形の血清の中には色々のものが含まれて居りまして病氣のない限り今申す通り其の組成一定不變でありますが一旦異常の出來した場合には忽にして之れを昔の平和狀態に挽回せんとするに至るのであります、例へば兎の血管の中に鷄卵を解いて注射しますと二三週間の後其の血の中には鷄卵を消化する性質のものが甚だしく增して居る、之れその鷄卵を片附ける爲に生じたものが丁度適當なだけに止まらず、ずんと餘計に出來て居るからであります、此性質は皆さんが何か怪我をせられたる場合又は手術でも受けられた場合に其の傷口の治る時に適度以上に餘り上つて來ることを御存じでありませう、之が時を經るに從てもとの通りになるのであります。斯樣に血液中に何か變動がありますと多くは餘分に之を警備又は破壞する性質のものが血液中に生ずるのであります、アブデルハルデンといふ人はかういふものを防衞醱酵素と申して居ります、一般には抗體又は抗體樣物質と云はれて居ります、そこで若し御婦人方が妊娠なさいますと子宮の中に胎兒及胎盤が出來まして僅か十ケ月間に著しい發育をするが爲に母體の血液中に種々の排泄物を送り込むのであります、今までは平和を保たれて居た母體内には俄にかゝる異種物質の侵入に會ふのでありますから前申す通り之を無毒となし母體血液と同じ成分のものに變化する性質の物質が多量に出來てまゐります、最近濱田病院副院長小畑博士の御研究によりますと胎盤を水で浸出した液は非常に有毒でありまして其微量を二十日鼠の樣な動物に注射しましてもすぐに死ぬのでありますが、この胎盤の浸出液に產婦の血液を加へますと其毒性が著しく減ずるのであります、即產婦の血液は胎盤の毒性を打消に力があるのであります、一體人間又は動物臟器の浸出液といふものは非常に有毒なものでありまして能く微量で動物を殺すのであ

りますが之が血液中に入つても動物又は人間其自身が一向死なゝいのは之れ血液中に之等を無毒にする性質のものがあるからであります、一寸横道にそれましたが前申しました脱盤の浸出液に子癇を起した人の血液を作用さしても毒性は減らぬさうであります、即子癇と申しまして妊娠中母を殺し胎兒をも犧性にする恐ろしい病氣は母體中に此の胎盤毒のやうなものを無毒にする性質の物質が缺けて居る爲に起る者と考へられるのであります、私の行つた實驗に置きましても腦味噌の煮たものと我々普通のものゝ血淸とを一緒にして三十七度の孵卵器に入れて置きますと動物を殺すに足る最小分量が漸次多少增すのでありますが麻痺性癡呆と申す病人の血淸と一緒にするとだん〱と無毒になるのであります、即吾吾の血液の中には腦を分解するやうな性質の物質は極めて微量で只每日極僅かづゝ破壞して行きますものを後附するに足るだけでありますが一旦腦のどんどん破壞して行く樣な麻痺性癡呆といふ病氣にかゝれば其血の中には腦の物質を破壞し之を無毒にする性質のものが澤山に出來るのであります、麻痺性癡呆と申す病人に時々癲癇樣發作があることがありますが之はこの無毒にする性質の物質が減るか又は有毒なる物質の排泄が腎臓病、心臓病等の結果著しく障碍されて居る樣な時に起るのであります。

斯樣の次第でありますから普通以上にあるこの無毒にする性質の物質を檢査して何を分解するのであるかゞ分れば其人の病氣又は變化のある所が分るわけであります、今日まで之を應用して種々の研究が行はれましたが未だ百發百中に分るやうな完全な方法はありませぬ、又まして胎兒の男女が尿や血淸から分るなどといふ人もありますが今日の所では先づ分らないのが眞實であります。

今日「チフテリヤ」に對して抗「チフテリヤ」血淸と申すものがあることは皆樣能く御存じのことでありますが之は「チフテリヤ」の毒を馬に何度も注射しまして其血の中に之を無毒にする性質のものが出來る

のを待ち其血清を採つて廣く人間の治療に用ひるのであります、凡て細菌による毒物や細菌に似た「スピロヘーテ」と申すものによるワイル稻田氏病等の鼠咬症なども抗血清が作れるのであります、病原體のみが分らない狂犬病なども抗血清は作れるのであります、抗血清は豫防にもなり治療にもなるのであります、しかし細菌によるもの殊に「ワクチン」などといふものは寧ろ豫防の方の效果が大であるやうであります、私の實驗した所によりますと、兎の皮内に度々羊の血を注射しますとその注射部が初の十數倍ほどの大いさにひどく腫れて眞黑に變色し痂皮が出來る樣になることがあります、之にその血管中に羊の血を注射しても一向その腫れ物は早くなくなりはしませぬが羊の血を血管内に注射したあとではその皮内に注射しても一向腫れ上らなくなるのでありますこの血管内に注射するものは「ワクチン」に相當するもので之によりてその後の皮内注射に對する豫防は出來るが治療にはならぬのであります、とにかく天然痘の流行する時に種痘をして置き「ペスト」の流行する時にその豫防注射をして置くことは結構なことであります、今度の歐洲の大戰でも「チフス」「コレラ」赤痢などの豫防注射をして居る爲にかういふことのなかつた昔の時代と比べますと百萬の軍勢でも昔の百五十萬にも當る位ださうであります、それほど豫防の效果はあるのであります、しかし茲に注意して戴かねばならぬことは血清を注射しますと大事の御子樣が五分間を出でずして痙攣が起つて死亡される樣なことが折々あることであります、之は過敏症と申す現象でありまして動物實驗では異樣蛋白質に對する抗體が充分出來て居る動物に最初注射した物質を極微量に注射すると忽ち死ぬことを左樣に申してありますが人間では初めて注射しても即ち原發性に能くこの現象が起るのであります、かやうな過敏性の動物には注射物質を卽ち極めて小部分だけ食鹽水か何かで薄めて與へ、三十分乃至一時間後目的だけ與へますと死なずにすむのであります、此

の狀態を抗過敏性狀態と申しますが人間に於ても初から過敏性であるかないかは能く分りませぬからこの筆法で初に微量を薄めて注射し三十分ほど何等症狀のないことを見屆けた上であとの全部を注射するといふ風にすればこの災害を豫防出來るのであります、進んで小兒科の御醫者さん達は皆かやうに二段に分けて注射して居られる樣です、大事な御子達を持つて居られる御婦人達は御注意なさらなければなりませぬ。

以上矢鱈に出まかせに御話致しましたが、一向何にも御益に立ちませぬでしたことでせう、餘り御退屈にならない中に御免を蒙りませう、之で莊司さんからの御賴みに對する責を果したことゝして戴きたいものであります。

夏の生活法

莊司秋次郎

夏の生活法と申した所で、人々によりて皆職業も異れば、住所も異り、經濟狀態にも種々の相異がありますから、萬人に適切な生活法を述べることは勿論出來ませんけれども、唯衞生と云ふことを主眼として考へるときに、夏は概して如何に暮らせば宜からうかと云ふことを思ひつくまゝに記して見ようと思ふのであります。

夏の生活に於て先づ第一に欲求されるのは涼といふことであります。山に入り海に行けば勿論暑を避けることは出來ますが、都市の中に居つて如何に涼を求むべきかと云ふのが主要の問題であります。暑いと申しましても我邦の夏は極暑九十一二度位ので、それも午後二三時間に過ぎません、風があれば堪へ難いと云ふ程のことはない、況や折々夕立があ

りて一段の涼を催はせば爽快この上もない事であります。東京も所謂下町には、隨分日中は苦しからうと思はれる處もありまするが、それも住むで見れば案外種々の方便があつて、夏を過せぬと云ふやうな事は餘りありません。元來日本家屋は夏向きに出來て居るので戸障子を開放せば直ぐ武藏野と一續きになる座敷ですから極めて涼しい筈であります。唯今日では人家櫛比し、殊に屋根は皆瓦葺であるから到底茅葺時代の昔のやうな譯には參りませんけれども東京の山の手では風通しには苦情はありません。又下町でも彼の土藏造は特に涼しいと云ふわけにはゆきませんでも案外暑くない。昔から日本家屋の設計には「すべて住居は夏をむねとすべし」と云ふことを唱へて居りましたので、防寒に對しては實に甚しい不用心であるが、この暑を防ぐと云ふ點には餘程意を用ゐたものと思はれます。故に如何なる借家住居でも障子をはづして靑簾を懸け、簷に忍ぶ風鈴を吊り、庭前に水を打てば、先づそれで快く午睡が出來ると云ふ次第で、必ずしも海や山に逃込まずとも濟むのであります。況や朝の四時から六時頃までの空氣は、大都會の街衢に於ても淸爽を覺える、殊に處處の公園地內に散步を試むるならば殆んどその都會に在るを忘れしむる。夕刻行水に汗を流して、淸潔な輕い浴衣に著換へ、庭前に涼臺を持出して、涼風に吹かれながら家族に偶然一二の訪客を交へて四方山の情話に歡笑し、又は兒女を携へて路傍の草花や金魚を見、蟲の聲を聞くなども都大路の夏のすさみである。斯樣に數へ來れば、日中二三時間の熱苦は、優に是等の樂しみに依て償ひ得て餘りあるものと謂はなければなりません。

故に夏の住居に就て衞生上特に注意を要する事としては別段ありませんが、唯だ小兒、殊に乳兒に就ては少しく注意を要することゝ思ひます。卽ち乳兒は寒さにも弱いが、暑さに對しても弱いもので、餘り氣溫の高い時には、如何に哺乳に氣をつけても、消化器を損し、衰弱し易いものでありますから、可及

的涼しい室に置いてやるやうに致さねばなりません。併し涼しいやうにと氣をつければ、今度は又風を引かせ易いと云ふ弊が起りますから、皮膚特に腹部を冷却さぬやうに、汗をかゝぬやうに、薄い著物と窓の具合で加減をしなければなりません。小兒の室に旋風器を仕掛けたりすることは甚だ有害であります。それから又小兒がはひ歩く時には、その汗ばむだ手や胸腹の邊が、疊の上の埃塵で非常に不潔になりますから、顔面を淸潔にしてやると同時に、屢々手や腹も淸潔にしてやらなければなりません。尙ほ厭ふべきは蠅と蚊とであります。飮食物には勿論ですが、睡眠して居る小兒に對しても蠅と蚊とを防ぐやうにしなければなりません。

次に衣服に就て申せば、夏は日本の單衣ほど良い衣服はあるまいと思ひます。殊に麻布の帷子と云ふ物もありますが、一般に木綿の浴衣は實に良い著物であります。簡單で寛濶で、餘り肌にも密著せず、殆んど手拭同樣に幾度でも簡單に洗濯が出來る小兒服としても至極簡便で、經濟上から云ふても衞生上から見ても餘り非難すべき點がない。小兒の單衣を汗臭くして著せて置くやうなお母樣であれば、これは眞に無精な人で、固より衞生などを談ずる限りではありませんが、小兒の單衣の如きは手拭を洗ふ序に汗を落すことが出來る。然るに所謂洋服は夏は甚だ不都合で、殊に「フロックコート」に至つては眞に苦勞苦「コート」である。あれは何うしても歐羅巴の寒國の禮服であつて、我邦の夏には無理な品物であります。然ればと申して「シヤツ」一つに「ズボン」縱令麻布の上著を引掛け、又は詰襟に致しました所で、甚だ體裁の好いものではありません。そして餘り涼しいと云ふ譯にも參りません。況や婦人服に至つては、涼しくしようと思へば、實に無樣な、卑しげな風俗になります。此點に至つては日本の婦人の單衣と云ふものは如何にも優美な好い著物であります。唯例の帶だけは冬も夏もお氣の毒な程厄介な物で、特に夏はなか／＼難儀な物らしいので同情に堪

へませんが、これで以て單衣の效能は半減される事と思ひます。最後に單衣、殊に浴衣の良い所を衛生的に破壞する一種の惡習慣を罵倒せずには居られません。それは彼の糊を著けて乾し固めて著る習俗であります。折角洗濯をして清潔にした物を再び彼の不潔物に浸して、丸で黴菌の死骸で固めた樣な物にして著る。そうして肌に著かずに、しやんとして心持が好いなどと云ふて喜んで居る。あれは廢めてもらい度いものと思ふ。浴衣は幾度も幾度も洗濯した所謂洗晒しの物に限ります。汗になつたならば唯の湯或は少しく曹達を入れてすゝぐか、精々石鹼を塗つて振すゝいで、そのまゝ乾かして著る。帷子も結構であるが、うつかりすると感冒に罹り易いから氣をつけなければなりません。

夏の病氣は何でも冷が元になると稱して、昔から腹部を冷さぬやうに氣をつけたものであります。それで所謂腹卷をする。これは經驗上から發明した事で、確かに宜い方法であります。實際腹部の皮膚を冷却すれば、反射的に腸が動いて雷鳴し、或は腹痛又は下痢を起すことがあります。特に小兒に於て過敏であります。所が私共が往々小兒を診察する際に、この腹卷を取去らせると臍の邊が一種の惡臭を放ち、側腹部に汗疹を生じて赤くなつて居る小兒を見ることが尠なくない。そうして斯樣な小兒は、その腹卷を除いてやると非常に嬉しげな顏をして、必ず腹の邊を掻く。これは今迄お腹を大事にされたと云ふよりは寧ろ強制的に虐待されて居たからであります。健康な小兒が活潑に遊んで居る時に、腹部だけが冷えると云ふやうな事は決してありません。それを夜間卷いたまゝの「フラチル」や毛絲の腹卷を晝間もそのまゝ縛りつけて、汗と垢と涎の糞で煮染めた樣にして置くのであります。斯樣に大事にされる小兒こそ迷惑な話で、而もそれは大抵乳媼とか女中とかの罪でお母樣には責任が無いと云ふ流儀の家庭の小兒である。實にけしからんものであります。

最後に飲食物の事を申しますが、先づ第一に夏期

に於て何が困ると申しまして、吾々が日に三度戴く御飯であります。罰のあたるやつだと叱られるか知りませんが、何うも餘り都合の好い常食だとは思はれません。冬の冷飯も隨分ひどいものですが、これはまあ蒸すとか、お茶漬にして食べるとかすれば食べられぬこともありませんけれども、夏は第一炊たての御飯の蒸氣を吹きながら汗を出して食べるのは餘り嬉しくありません。然ればと云ふて、特別の注意を以て貯藏して置かなければ、小半日も經てば忽ち臭氣を放つやうになります。一旦斯様に腐敗しかけた飯は、蒸せば益々厭な臭がする、仕様事なしに握飯にして表面を燒固めるとか、澁茶をかけて、臭氣を胡魔化して啜込むとか、愈々仕方がなくなれば洗流して乾飯にして雀と半分配にするとか、或は前述の浴衣を固めるのに應用すると云ふことになります。私はこれこそ眞に勿體ない罰のあたる常食ではあるまいかと思ふのであります。米食贔屓の人或は米食辯護論者は又それぞれ相當の理窟を竝べます。

例へば米は麥などに比べると一定の地面から多量の「カロリー」を得る。即ち比較的多くの榮養分を獲ることが出來るから、我邦の如き地面の小さな國では米を常食にするのが得策であると申します。實際上等の米は麥よりも幾分か多量の「カロリー」を得ることになりませう。併し水田は同時に他の野菜などを其間に蒔くことを容しません。全く稻だけで半年以上占領するのであります。のみならず、その水田の準備から、培養法に至るまで眞に苦勞なものであります。そして土用に少し雨が降つても、僅か照り過ぎても不作である。而かもその最も大事な實入時が毎年二百十日、二百二十日と云ふ暴風雨の襲來する季節に相當して居る。これを考へても何處から何處迄不都合な無理な不經濟な作物のやうに思はれます。それから又所謂精白法と云ふものが、なかなか大變なもので、何一ろくな發明品の無い我邦に於て、この精米機械の發明特許品は實に大したもので、寧ろ馬鹿らしい氣が致す程であります。それから茲に

相場師と云ふものがあつて、國民の食料を弄んで、咽喉を絞めたり緩めたりして我利を圖る、斯樣な手數を經た上でなければ人民の手には渡らない。目下その價が何んなものかと云ふと一升四十錢もする。これが日に三度食べなければならぬ生の主食料の價である。丸で黃金を糞にするやうなものである。世界廣しと雖、此の如き無法に高價な食料を主食としてゐる國があるでありませうか。しかも如何程精白しても生米は食べられません。そこで如何に貧窮の家でも必ず竈や釜を備附けて、何事を差措いても每日御飯を製造しなければならぬ。女中の無い家では每朝主婦の大部分の仕事はこの飯製造である。少し家族の多い家では特に飯炊と云ふ專任の炊事係を雇ふて置かねばならぬ。しかもそれが決して每日同樣には出來ない。米の種類により、薪の具合により、又火の焚き方、引き方、釜の下し方、御飯の移し方に依てさへ硬し軟かし、或は心があつたり、粥の出來そこないのやうになつたり、さては焦げたりと云ふわけで、なか〱加減が六ケしい。斯樣にして漸く出來た物が何かと云へば所謂唯の御飯である。矢張これだけでは食べられません。少くとも味噌汁であるとか香の物とか位はなければなりません。その大騷動は、到底西洋人が藥罐に「コーヒ」を沸かして置いて、卓の上に「パン」と「バタ」だけを載せて置けば、誰が何時起きて何時食べようと少しも構はぬと云ふ朝食とは較べものになりません。まあ良く言へば實に御大名と勞働者との差であります。併しその經濟上の實際は反對の狀態である。この朝食振を比較觀察したゞけでも斯樣な差が生じて來さうに見えるのであります。近頃歐羅巴で多少米を食料に應用し或は應用することを奬勵するのを見て、直ちに西洋人も日本食の良い事を知つて來たなどゝ得意氣に恐悅がる人もありますが、これは唯戰爭の爲めに食料に缺乏を來して居るので、植民地で折角米が出來るのであるから、今迄は唯鼠や「モルモット」の飼料にしてゐた米も、人間の食料に使へば便宜だと云ふ

に過ぎないのであります。

然し今私が常食として米飯の甚だ面白からぬものであると云ふことを幾ら申したからとて、急に皆様の御贊成を得る見込もありませんから大概にして止めますが、少なくとも夏だけは何となり工夫をして、彼の臭氣のある御飯だけは決して召上がらぬやうに希望致します。特に彼の恐るべき脚氣と云ふ病氣は、凡て米食人類にだけある惡疾で、鷄のやうなものも白米を食はせて置くと人間の脚氣と同樣の症狀を發すると云ふ位でありますから、實際の病理は未だ不明でありましても、脚氣の氣味のある人などは絕對に米食を廢されるのが安全であらうと思ひます。尙ほ小兒の辨當などには米飯は甚だ宜しくないもので、冬は冷たし、夏は腐敗し易く、塵埃や蠅などがたかり易く、又こぼし易い。これだけは是非麪に改め度いものと思ひます。私は軍隊の炊事を見ましても、米飯といふものは何たる厄介な又不體裁なものであらう。若しウラルを超えて歐洲の天地に活躍すると云ふやうな場合が到來したとするならば矢張彼の樣な大釜を幾個も馬につけて、重い米俵を幾輛も引いて行かなければ戰が出來ないのであらうかと心配したことがありました。

何時も月夜に米の飯と申しますが、私はこの米の飯の事を考へますと、何時でもその不都合な主食品であると云ふことを思はずには居られません。併し米の飯の事はこれで打切りまして、他の飲食物一般に就て夏期の注意を一言致しますならば、先づ第一に飲料としては冷水が一番宜しい。但し清淨な水でなければならぬ。清淨な水と申すのは、衞生學的に良好の飲料水と稱し得べき水であります。通常衞生學的檢査に於て良好の飲料水と稱し得べき水質を述べて見ますと、大體左の如き性質を備へて居なければなりません。

（一）清澄でゐて無色無臭で、變な味があつてはならぬ。

（二）溫度は四季に亙つて餘り差なく、七度乃至十一

度位のものが適當である。

(三) 器に入れて二十四時間靜にして置いても底に沈澱を生じてはならぬ。

(四)「アムモニア」、亞硝酸を含むでゐてはならぬ、硝酸を含むも極微量に限る。

(五) 一「リートル」中に三十「ミリグラム」以上の「クロール」を含むでゐては不可ない。又燐酸及び硫化水素を含むでゐてはならぬ。

(六) 硬度は二十度を超えてはならぬ。鉛、亞鉛及び砒素等の如き有害金屬を含むでゐては勿論不可ない。

(七) 顯微鏡で檢査して見て普通水中に居る所謂水菌は多少在つても差支はないが、これも勿論少ない程良い水である。滴蟲とか原生蟲とか云ふものも少々は含むでゐても通常別に害はないが、是等のもの丶中には何うかすると赤痢の原因になる「アメーバ」などが混じて居ることがあるから、斯樣な蟲類の多い水は良い飲料水とは云はれない。

以上の性質は化學的に又顯微鏡に檢査しなければ鑑定することが出來ませんから疑はしい水は衛生試驗所のやうな處で檢査してもらはなければなりません。

右の如き檢査に及第した水ならば先づ良好の飲料水ですが、併し水も餘り多く飲むと消化を妨げる。又餘り寒冷たいと胃痙攣を起したり、下痢を起すやうなことがあります。硬度の强い水、即ち石灰鹽類などを多く含むでゐる水を常用すれば胃病或は腎石膀胱結石などと云ふものを起す原因になると申す人もあります。但しこれは確かな說ではありませんけれども兎に角硬水で肉や豆類などを烹る時は、その物が軟かにならず、食物の蛋白質と水の土類鹽と抱合して不溶解物を作りますから、その爲めに間接に消化を害することになります。少しく疑はしい水であれば一旦煮沸してから冷却して飲まなければなりませんが、煮沸した水や蒸餾水は誠に味のない不味いもので、舌や胃の神經を刺戟興奮せしめて消化液

を分泌させる力がありません。往々嘔氣を催させるものであります。故に斯様な水は、能く震盪して空氣を混ぜるか炭酸を加へなければなりません。

麥湯を冷却して少し砂糖を加へて出しますが、あれは至極結構です。但し餘程注意して冷却して置きませんと、朝に製つたものは夕方には澤山黴菌が繁殖して臭味を生じます。斯様なものは勿論飲むことは出來ません。「サイダ」類も少々は適當な飲料に相違ありませんが、往々不良品があるから氣をつけなければなりません。不良品でなくとも不適當に又多量に用ゐますと、得て下痢し易いものであります。氷水は餘り過冷の飲料で胃腸を損じます。私は幾ら氷水を飲むでも何ともないと云ふ人は、特別に胃腸が丈夫でその害に堪へ得ると云ふだけで、決して無害の飲料ではありません。況んや適當の飲料とは申されません。新鮮な果實の汁を入れた、所謂「リモナーデ」類は清涼飲料として適當なものであります。

果實の眞の味は、木の上で充分熟したのを、そのまゝ食べるにありますが、果物屋の店前には全く不熟の物をも並べて賣つて居ります。斯様なものを食べれば勿論消化器を害する、特に小兒は甚しい。若し斯様な物を食用しやうと云ふ時には煮れば宜しい果實の中でも桃、瓜などは甚だ不消化なもので小兒の胃腸を損なふことが多い、林檎、「バナ、」等は比較的消化し易いが、それも程度問題で、小兒の食べ放題にして置けば腹を害すことと受合であります。少しづゝならば夏蜜柑でも西瓜でも凡て清涼の食品として結構です。

最後に魚類は、新鮮な物は勿論差支ありませんけれども、魚屋の店に在るものは甚だ面白くない。如何に注意しても蠅が群集する。尤も充分煮るか燒くかすれば宜しいやうなものゝ決して心持のよいものではありません、況んや洗ひとか、刺身とか云ふ料理に至ては先づ危險物と見て宜しい。夏は殊に河魚が賞美されますが、海老、蟹の類は往々劇烈な中毒を起すことがある。又鰻は薬だと申しますが決して

消化のよいものではありません。併し夏は幾分脂肪の缺乏を覺ゆるものと見えて、時々脂肪の多い物を欲する人が少なくありません。斯樣な人は支那料理のやうに何から何迄一度煮た脂肪性の食物を少しづつ用ゐて宜しからうと思ひます。支那料理や西洋料理の方が日本料理よりも中毒騷ぎの少ないことは事實です。

食料品そのものゝ注意は勿論の事でありますが、尙ほ臺所一般の衞生的注意がおろそかで臭氣があり蠅や蛞蝓などが活動するやうでは、如何なる上等の食料を精選しても全く無駄であります。臺所及び一切の料理道具並びに食器に至るまで衞生的に嚴重なる監理をするにあらざれば、夏期は決して安全に過すことは出來ないのであります。

育兒

小兒下痢の手當

醫學士　竹内薫兵

赤兒はよく大便のゆるむものである。然し赤兒の下痢と、少し大きくなつて幼稚園へ行く年齡、即ち五六歲の時のと、もつと大きくなつて十歲以上になつてからの下痢とは、餘程容體も違ふものであるし又手當もそれ〴〵違ふものであるから周圍の者はよく心得ねばならぬ。尙ほ其上心得て置かねばならぬ事は下痢する外に嘔吐も一所に起るか起らないか、下痢の外に熱はあるかないか。それから又出る便の色はどうか、臭氣は惡るいか惡るくないか、粘液や血は混入して居ないか食べたものが其まゝ混ざつて

居るか、便通の回數は一日何回あるか。便通のある時又はその前後に、腹が痛むか又泣くかどうか。などである。それによつても治療の仕方は各々異るものであるから、判然と判るやうに注意して置かねばならぬ。

乳兒の下痢　普通世間でいふ通り、我邦では生後百日程の間は俗に「泣く子垂れつ子」と申しまして、小便の回數や大便の回數の多いのは餘り氣にかけない程そんなに赤兒は下痢するものである。然し大便の回數の多いのや下痢するのは決して健康な印ではありませんからなるべく治さなければなりません。

同じ赤兒の下痢と申しましても種類のあることで母親や乳母の乳を飲んでる小供が下痢したとて左程氣にするには及びません。殊に熱もなく嘔吐もなく又出る便に惡臭もなく血もなければ、たとひ青い色の便であつても、少し位顆粒があつても、少しは粘液があつたとて、大病ではない、又重い病氣にもならないと想像する事ができる。それは大抵一時の飲み過ぎであるから、乳を與へる時間を短くして、一方では乳を飲ませない時間も長くすれば自然治る事が多い。併し熱が出たり、嘔吐があつたり、又出る便に前申したやうな、種々の變化があれば、是非とも醫者の診察を受けねばならぬ。

牛乳を飲んでる子供　牛乳で養はれてる子供は、便祕する癖の子と下痢を起す子供との二た通りあるこれは牛乳を飲み過ぎて起す子供もあるが、又中には牛乳は一匙だけ飲んでも、もう下痢を起す子供もある、つまり子供に適しないである、牛乳榮養障碍と云ふ病氣は、かくの如き子供に無理に飲して置くと、遂には下痢や嘔吐を起し、顏は蒼白となり、痩せ衰へて終ふのである。平素は牛乳を飲んでも下痢を起こさないが、少し飲み過ぎると下痢を起すと云ふ場合には、先づ牛乳を廢して、親の乳か乳母の乳かに變へて仕まへば一番よいが、それが出來なければ平素よりも、牛乳をずつと薄くするがよい。卽ち湯さましで十倍位に薄めた牛乳を、分量はこれまで

通り飲ませて見る一日間これをやつて效が無ければ今度は牛乳を全く廢して、卵白水といふものを拵らへ、これをこれまで牛乳を飲したと同じ分量だけづつ一日三回飲ませ、其外は番茶かお湯を飲まして置くがよい。卵白水の製法は、

鷄卵一個から白味を取り出し、この白味へ湯ざまし(決して温かい湯ではいけない)一合を入れて少しかきまぜて、これを「ガーゼ」四枚折にして漉すべし。漉したものが卽ち卵白水である。子供に飲ませる時はこれへ少し食鹽を加へ、又は五百倍位の「サッカリン」水を少し加へて與へるがよい。

又此外、牛乳を平素よりもずつと薄くして、其中へおも湯を半分ばかり入れたものを與へるもよし、又は牛乳を薄めた中へ「メリンスフード」といふものを一匙入れたものを飲ましてもよい、輕い下痢ならば以上の方法で大抵治ります。

併しこれは醫治を受ける便利のない場合に行ふ方法で且又輕い場合に限つて行ふべきで、此外適當な方法はいくらもありますが、誤を生じやすいから略して置く。

殊に注意し又警戒して欲しいと思ふ事は、下痢止めの藥を用ゐてはならぬ事である。

藥の害は恐ろしい　可愛い子供が下痢すると、早く止めてやりたいのは人情、親なれば尚ほの事です、然し「コレラ」のやうな下痢は兎も角として、其外の下痢では決して急いで止めてはいけない。害あるとも益はない。賣藥にある下り腹の止め藥といふやうな藥は決してむやみに用ゐてはいけない。疫痢といふ病氣は子供に來て激しい下痢を起し、且つ痙攣を起す病氣であるが、こんな病氣に始めから下痢止め藥でもやらうものなら、其子供は必ず死ぬ。たとへ疫痢でなくとも赤痢でも消化不良といふ病氣でも、始めから止め藥を與へれば必ず惡結果を來たすものである。又下痢は如何にひどくとも、それだけでは一日や二日續いたとて、それがために子供は命をとられる憂はないし、或は又止め藥を與へなかつたか

ら、餘計容體が惡るくなるといふ事は少しもないが、なまじ止め藥を飲ませたばかりに容體が非常に惡るくなり、又は一晩で以て死んでしまう例は珍しくない例である。

大きな子供の下痢　乳ばかり飲んでる子供の下痢は平常が割合に簡單であるが、少し大きくなつて乳の外にいろ〳〵な物を食べる子供の下痢は扱ひが餘程面倒になるといふのは、下痢を起す原因が乳兒よりもずつと複雜だからである、食べ過ぎれば勿論であるが、食べ過ぎないでも、飲み物や食べものが惡るくとも、又腸に病氣を起しても、或は腸に蟲が居ても下痢は起るものであるから、誤まつて素人療治をやらうものなら飛んだ事になるのである、それ故今玆で治療法を述べる譯にはいかない。然しどんな場合でも下痢してる子供に行つて惡るい事だけ申しますと、それは第一飛び歩く事である、成るべく靜かにして寢くがよい。第二に飲み過ぎ喰べ過ぎをする事である、第三には葛湯、おも湯などより以外の物をむやみに喰べる事である、第四には果物の汁を飲ませる事である、餘計下痢を起します、第五は今申した止め藥を飲む事である。

玆に注意するが、子供の下痢してる場合に水氣のものを控へる親がありますが、これは却て惡るい。下痢すれば平素よりも澤山水分が身體からなくなるから頻りに渇くものです、これを補ふには矢張り番茶や湯ざまし、麥湯などの類をこしらへて飲ませる外はない。一寸考へると、下痢してるところへ水氣のものを飲ましたら、もつと下痢しさうに思ひますが事實は決してさうではない。却て少量づゝ飲ませる方が元氣が衰ろへないで結果がよいものである。

要するに子供に下痢が起つた場合には、急いで下痢止めの藥など飲ませる事をしないで、先づ靜かに子供を寢かし、若し激しければ懷爐、燒鹽、茹でた蒟蒻を腹へ當て、又「フランネル」を三重程に腹へ緩く捲き、熱があれば頭を水又は氷枕で冷やし、嘔吐が伴へば衣服をらくにして胃部を冷やして、徐ろに

醫治を乞ふがよい。此場合には出た大便や嘔吐した物は殘して置いて醫者に見せる事を忘れてはならぬ。これ以外の事は却て何もしない方が子供のためにも安全である。

小兒の水泳

吉岡彌生

身體の育つ盛りなる小兒時代には、溢れんばかりの活氣を散せんため都會、田舍の區別なく、夏になると水泳を欲するものでありますが、小兒の水泳には餘程注意しませんと弱き小兒を一層弱くし、病める小兒を一層病ましむるのみか、健康なる小兒を不健康にする虞れがあります。

然し利益の方面より申しますれば、身體强壯なる小兒には皮膚を强くし、消化を助け、腸胃を固め、胸廓を擴め、呼吸器を健にし筋肉を發達さするなどの利益があります、かの冷水浴の利益と、歩行又は大弓運動などの利益を併せ受くるものであります。又たとへ身體に缺點がありましても、尚利益を受くる事があります。卽ち神經衰弱の人とか、皮膚の惡るい人とか、腸胃病の人などにはきゝめがあるのであります。

然しながら水泳より受くる害も中々多いのであります　それは十歲以下の小兒には絕對にいけません十歲以上でも身體の薄弱なる人、心臟の惡い人、腦に病氣のある人(これは神經衰弱と似て非なる者ですから、水泳でもしようと思ふ方は、醫の診察を要します)腎臟炎のある人、脚氣のある人、耳の惡るい人、肋膜炎を病みたる人などには極惡いのですから、斯る小兒は初めから水泳の資格がないのであります。

水泳する場處は申すまでもなく、淸潔な水でなければなりません、海洋はどんな處でも鹽と云ふ殺菌劑がありますから良いのですが、川であるとか、湖

であるとかは、清淨な處を選ばねばなりません。ですから田舍を流るゝ水源近き所であるとか、兎に角不潔でありさへせねばよろしいのですが、たとへば東京市を流るゝ川の如きは、何れも衞生上よくありません。よく飯田橋の所とか、隅田川あたりでは、盛に水泳者を見受くるのですが、斯る河川は、程度の差こそあれ、何れも下水の溜りの如きものです、泥川の如きは、恰も糞溜の如く、有ゆる黴菌の集合所でありますから、水泳して、却て病毒を受けるやうなものであります。結核、虎列剌、窒扶斯の黴菌は、多くこんな所より受けます。ですから、都會の水泳には、どうしても賛成ができませんのです。水泳の箇所は、行政上卽ち警察で取締つたらよからうと思ひます。

水泳は暑さの身に泌む時節、卽ち夏に限りますが、同じ夏であつても比較的に寒冷な時とか、暑い日であつても、朝早くとか、日中熾かんばかりの時とかは控へねばなりません。水泳に一番長い時は、炎天の日の午後三時頃です。日中でも極日陰ならば差支ありません。

水泳は餘り長くすると却て身體を害します。如何に長くとも、一時間を越してはなりません。普通の人なら二三十分間がよろしいのでせう、殊に初めて水泳をする人なら、初めは五分間、十分間、二十分間といふ工合に、次第に長くせねばなりません。

水泳に當つて、どぶんと身を投ずる時には、多少耳の中に水が這入つたり、又動悸を高めますから、已に水泳の資格のある人でも、成るべく注意したら良いでせう。又水泳を終つて衣服を著る時には、よく乾いた手拭で身體を拭ふことを怠つてはなりません。又十歳以上の小兒でも比較的年の幼い者は長く水に入つてはなりません。

抄録

鶏卵の中毒（實驗醫報）

佛蘭西のリノッシエと云ふ人が鶏卵中毒に就て次のやうな話をした。鶏卵に由て往々中毒を起す事のあるのは今日ではよく知られてゐる事であるが、これは鶏卵を食へば何時も腹が痛むとか下痢をするとか云ふ素因のあるものだけに起るのであつて、その説明も種々試みられるが、兎に角この毒性の物質は、鶏卵の中に含まれてゐると定まつた化學的成分の中には發見されない。先づ一種の「トキシアルブミン」と看るのが最も妥當である。リノッシエ氏の研究では、兎も角この毒性は熱に由て破壊されるものであると云ふ成績を得たのである。それで鶏卵に由て起るべき危險を避けようとするには、過敏な人には卵白も卵黄も全く凝固する程に充分に煮たものでなければ與へぬやうにさへすれば宜しい。通常斯樣に煮れば卵は消化し難いものになると思はれて居るが、實際は、凝固した蛋白は生の蛋白質よりも胃液に由て溶解され易いものである。これは稍〻輕卒な言のやうに思はれるかも知らぬが、確かな事である。何故ならば生の「アルブミン」は消化されずに胃を通過するに過ぎぬからである。肝臓病の中では膽石症だけには餘り煮熟した卵は節減しなければならぬが、併し絶對的にこれを禁ずる必要はない。腎臓炎のある病型の場合にも同樣の注意が要る。蛋白尿に對しては、通常よく煮た卵は佳良の食品である。何れにしても鶏卵の腎臓に對する毒作用も、全身毒性も煮熟に由つて破壊されると云ふことが證明された。

「サイダー」の鑑別法（新聞）

「サイダー」、「ラムネ」、曹達水の如き清涼飲料水は之れから何人にも喜ばれるが然し其れが不良である

ご之れを飲んだが爲めにツイ胃腸を損じる事になる。ソコデ一通り良否の鑑別法を心得て置く必要がある。

「サイダー」の良否を鑑別するには決して壜を振つては成らない靜かに取上げて中を見る而して好く澄んで居れば先づ第一の資格が通つた者だ、更に進んで極めて靜かに轉倒して底を上に向ける其れで何も目に著く物がなければ罎に注ぎ瓦斯が細かに長く立つて厭はしい臭味がなければ及第と見て差支ない、之に反して不透明で罎の底を上向きにした時沈澱物が降りて來るやうなのは不合格である。

氷店或は洋食店等で「サイダー」を飲む時店員に良否を問ふと必ず振つて罎の口を切る斯うすれば沈澱物があつても判らぬやうになるから若し試驗して飲まうと思へば良否を質さずに受け取つて自分で試驗をした方が宜しからう「ラムネ」の鑑別法も略ぼ「サイダー」と同樣である。

夏のお化粧（婦女新聞）

夏は顔に皮脂が出ますから、お白粉崩れがいたします。豫め此の皮脂を防ぐ工夫をすることが必要であります。それには通例、加里石鹸五瓦、酒精百瓦水二十瓦を混ぜた液を作つて置いて「ガーゼ」に浸し顔の皮脂をよく拭き取つてしまひます。更に生理的に效能のあるのは「サリチル」酸一瓦、加里石鹸十瓦、酒精七瓦、水三瓦の液を朝夕二回も塗りますと、皮脂の出ることが少くなります。尤も皮脂をとる前には一應湯で洗ふ。充分顔を冷やしてからすることを忘れてはなりません。斯うしてから化粧しますと一日は充分に白粉くづれを防ぐことが出來ます。

豆腐を腐らさぬ法（養生の栞）

豆腐は消化もよく滋養分にも富み我が國固有の至極良好なる食物であるが、惜むべし少しく暖氣に向へば腐敗し易い。之につき海軍軍醫中監渡邊、上與、

那原、川越氏等の研究した所によれば、少しは從來よりも腐敗を防ぐに有效の方法があるらしい。その方法は左の如くである。

一、保有するに五％(二十倍)の食鹽水中に貯ふれば淡水よりも永く保存し得る故長時間保存(十五時間乃至二十時間)の必要ある場合には食鹽水に入れ成るべく冷所に置く事。

二、淡水中に十三時間保存せし物は稍々硬くなり其味古びたる臭味を帶ぶるも食用には差支なし。食鹽水中に置いたものは十六時間を經れば豆腐固有の美味は減ずれども、十九時間半に至るも酸味はなし。故に食しても差支なかるべし。

さて豆腐の腐敗せるや如何を鑑別するには、

(1)表面滑澤(ずる〱すること)となり彈力減じて脆弱となりたるものは不良。

(2)水上に浮き上り之を劃るに線を引くものは甚だ不良。

(3)酸味酸臭を發するものは不良。

(4)豆腐內溫度と氣溫と豆腐を入れたる水の溫度との關係に就ては特徵を認むる能はず。

(5)既に變敗に傾き若くは腐敗に陷りたるものを醬油にて煮附となすときは鑑別困難となるを以て一定時間を經過したるものは調理前一々注意して檢査するを可とす。

(6)汁となしたるものは變敗して酸度强ければ汁に酸味を帶ぶるも弱酸性のものは汁となすときは鑑別困難なり。

洋傘の色　(醫學士古宇田傚太郎述、婦女新聞)

そこで婦人方が色の黑くなるのを防うとすると、日光の直射を避けなければなりません。それには從來蝙蝠傘が一般に用ひられて居りますが、第一此の蝙蝠傘について注意しなければならぬのは其の色であります。

黑は日光の直射を防ぐに普通最もいゝとされてゐますが、成程紫外線を避けるには妙であるが反對に

熱を吸收するから困ります。白は熱を避ける力があります代りに紫外線はドシ〳〵吸收して日焦けを防ぐ效はないといふ譯で、一番いゝのは青か紫であります。

次に藥品でありますが、水に溶かした酸性の硫酸「キナエン」を「クリーム」などに混ぜて厚く顔に塗りその上に厚化粧でもすれば、自然日焦けを防ぐことは出來ます。昨今化粧品屋で日にやけぬ「クリーム」といふのは、此の藥を混せたもので、「スエオツォーン」や「エスクリン」などの舶來品も效目があります。最後に申添へて置かなければならないのは汗です、汗は日焦けを助けるものでありますから、出たら直ぐに拭かなくてはなりません。

爪楊子に就て

（文學士内藤智秀述、齒科學報）

昔から「武士は食はねど高楊子」と云ひ、或は「我が妻の楊子をつかふ口の中」と云つて、楊子は上下に使用されたものであるが、扨其れが何時頃何所から始まつたものか、或る人は佛教に始まるもので、天竺でも釋迦在世の頃より楊子淨水と云ふ句を經文の中に入れ、又齒木を嚙むと云ふ經の文句もあると云ふが、是れに反して印度にはかゝる事はなかつたと云ふ說もある。然し日本では古くは神祇令にあり、又一千年前菅公の御歌の中に、

わすれても竹のやうじをつかひしか
ねかひし事の叶ざりしは

とあり。

見る石の面に物は書ざりき
竹の楊子もつかはざりけり

とあるのを見ると、日本では藤原氏の全盛時代から既に此の風俗があつたものと見える。支那では是れが中頃一時中絕したものであらうか、永平寺の開祖の道元禪師が入宋して、楊子をつかつた所天童山の如淨禪師が、大變感心せられたと云ふ事も傳へられて居る。又今日も支那では楊子は使ふ事は道元を以て始めさするると云ふ說もある程であるから此の風俗

は日本から始まつたものであらうと云ふ人もある。然し南海寄歸內法傳と云ふ本の中に、「齒木の長十二指短きは八指云々尊人に近よる時は左手を以て口を掩ふ」と云つて、楊子の長さ其の使用方法迄擧げてあり、釋氏要覽には諸種の經文を引用して嚼楊子の事を詳說してあるから、矢張印度には極上代からあつたものであらうと思ふ。今より百年程前和蘭人が調査した佛領印度支那方面の風俗研究の報告を見ると、回敎徒が口中を淨める爲めに、早くから楊子を用ゐて居た事を述べて居る。食前食後或は讀經の前には必ず楊子を以て齒を淨めて居たので、今日でも回敎徒は之れを八ケ間敷く云つて居る。兎に角此の風俗は極々古代に印度にあつたものが支那を經て日本に渡つたものであらうと思ふ。

然し是れは西洋では殊に左樣であるが、日本でも色々と時代によつて變遷して居る。卽ち其の形、長さ、材料等が今日になる迄幾度も變つて居る。先づ其の名稱から調べて見ると、「竹のやうじ」、「猿屋打やうじ」、「平やうじ」、「ふさ楊子」、「壺打やうじ」、「紋楊子」、「鐵楊子」、「刀子」、「齒托」、「爪やうじ」、「大楊子」、「長楊子」、「琢楊子」、「片見楊子」、「かるた楊子」、「杉楊子」、「そぎ楊子」、其の他、「黑もじ」と云ひ、「牙枝」、「剔牙棒」と云ふのも、皆此の齒木たる楊子をさすのである。是等は其の材料、製造方法、形及び使用方法によつて種々變つて居るのであるが其の材料となる木は山中に自然に生へる蘗木で、皮が黑く香氣あり、其の上葉は梨の木又は桐の葉の小なるものに似て居る。實は椋程で、冬熟すると紅になる。九州では犬桐と云ふが、是れは葉が桐に似たからであらうか、又黑もじと云ふのは木理柳に似て居るが、葉は別に柳には似ないけれども支那では是れを白楊と云ひ、京都では「はこやなぎ」と云つて居る。其の木の高さ一丈許りで葉は又椎に似て鋸齒がない。春若葉の出る時黃色の花が咲く、皮の色も若い時分には靑く所々に黑き斑點を持つて居る。此の外にかんぼく又は別種の白楊を材料とした事もあると云つて

居る。

製作の方法及び其の形は名稱によつて各々現して居る樣に、各々特色を持つて居る。第一、竹のやうじは文字通り竹で造つた楊子であるが、是れは昔から竹の箸を忌む風俗もこゝから出たものであらうと思ふ程最も舊くから嫌はれたもので、今日でも最も安價な爲めでもあらうか、又其の製造方法の粗末な爲めか、人々餘り珍重しない。殊に粗惡なものになると其の竹の纖維が腸に這入つて盲腸炎を起した人がある位であるから、忌まれるのも無理のない事である。次ぎの猿屋打やうじは販賣所の名から出たので、猿屋で賣り出す楊子の意である。打やうじとふさ楊子とは同じもので、小楊子は幾分平たく作つたので少しそつて居るものである。其の他紋のあるもの形見に送るもの、形の小さなもの等によつて別れる。只だそぎ楊子は一寸變つて居るが是れは杉の割木だと云ふ事である。

其の長さは色々あつて、最も小さいもので、三寸長いのになると昔は一尺二寸位のもあつた。其の中間は任意であるが、諸經要集の中に「極長十六指極短四指以上、若し齒無者當に灰を用ゆべし」と云つて居る。然るに四指の量は三寸とするとの事で、一肘を伸て一尺八寸として二十四指肘即ち四指は三寸である。是れは古代の事で、文政年間は四寸から六寸の間のものを用ゐ、延寶の頃の遊冶郎の用ゐたものが、即ち上述の長い方のものであつた。然し寛永前後天和貞享ころ迄の古書によると矢張り長い方のものらしい。（以下次號）

雜報



○英國の新勳章

英國にては今回の戰爭にて特に「ダム、オブ、ゼ、ブリチッシュ、エンパイヤ」なる勳章を制定せられたるが、本會會長鍋島侯爵夫人が篤志看護婦人會其の他聯合國援助の公共事業に盡瘁せられつゝあることを聞召され、英國皇帝陛下は過般コンノート殿下の御來朝に際し、夫人に對して同勳章を授與せられたり、是れ日本に於て初て授與せられたるものなりと云ふ。

○家庭衛生講習會

婦人矯風會主催の下に九月十六日より十月十五日に至る水、金、午後二時より四時迄家庭に必要なる衛生及衛生「マッサージ」の講習あり要項左の如し。

△場所赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部内△講習料金拾圓也前納の事△講習修了者には修了證書交付△講習修了者は會員として隨意傍聽又は研究する事を得△講習主任醫師藤井季子氏。

○産婆と看護婦

産婆の員數　大正五年末現在の總數は三萬二千八百四十人にして之を前年に比すれば九百八十六人を增したり。之を類別すれば指定學校若くは講習所卒業者百七十八人、試驗及第者一萬九千三百六十八人、從來開業者一萬二千三百十九人。限地開業者九百八十五人なり。此の類別を前年に比すれば指定學校若くは講習所卒業者は三十人を增し、試驗及第者は一千七百四十人を增し、從來開業者は六百七十人を減じ、限地開業者は百十四人を減じたり。大正五年末現在の産婆を人口一萬に對比すれば五人九五に當り、之を前年に比すれば〇人一〇の增加なり。此の比例數を地方別に觀れば、最も多數の産婆を有するは東京府にして一一人三六、之に次ぐは福岡縣にして九人一八、其他三重縣の八人九三、大阪府の八人五九、兵庫縣の八人五〇、佐賀縣の八人二九、長崎縣

の八人一八等又之に次ぎ、島根、愛知、和歌山、岐阜、滋賀、新潟、青森、山形、奈良、福島、京都、宮崎、宮城、石川の各縣は多きものに屬し、又最も少なきは山梨縣にして一人二五、之に次ぐは德島縣の二人三六、長野縣の二人四〇、埼玉縣の二人五七、沖繩縣の二人六〇等にして岡山、栃木、鹿兒島等の各縣は少なきものに屬す。

看護婦　大正五年末現在各地方廳にて免許を與へたる看護婦の總數は二萬七千七百十四人（内五千百六十三人は準看護婦）にして之を前年に比すれば八千九百六十を增したり。此の年末現在員を各地方別に觀れば、最も多數の看護婦を有するは東京府の五千八百五十三人、次は大阪府の二千八百十九人、次は兵庫縣の一千六百九十四人、京都府の一千三百七十二人。其の他新潟縣の九百七十五人、靜岡縣の八百九十七人、福岡縣の八百四十八人、愛知縣の七百七十一人、神奈川縣の七百六十九人等多きものに屬し又最少なるは沖繩縣にして二人、次は宮崎縣にして四十九人、其の他富山縣の百二十三人、福井縣の百二十六人、岩手縣の百二十八人、奈良縣の百四十人、德島縣の百四十四人、岐阜縣の百八十八人、千葉縣の百九十二人、高知縣の百九十三人、滋賀縣の百九十四人、茨城縣の百九十六人、埼玉縣の百九十九人等少なきものに屬す。

○鐵道旅客用飲食物取締

鐵道院では二十六日、旅客用飲食物取締規程を發表した、これによると院線各驛の旅客用飲食物に對し普通特殊の二樣の檢査を行ふので普通檢査は各驛當該職員が牛乳酒類及清涼飲料水、罐詰類の容器、封緘、栓、臭氣、變色溷濁其他に就て每日嚴重に行ひ、特別檢査は鐵道病院囑託醫又は技師が、必要に應じて飲食物の純不純に就き化學的試驗を行ふのである。其他飲食店、調理場も、時々臨檢して清潔の保存に努め防蠅、防塵、防鼠上の設備を促し、販賣人又は調理業者に對しては就業の際及び每年一回以上健康診斷を行ふこと等が主な件で、即日實施さ

れる筈である。

○市内の掘井戸

東京市内に、掘井戸が一萬九千四十八ヶ所ある、これを使ふ人が六十萬人からある。井戸の水は水道の水より冷いので水道專用栓の取付けてある家でも、夏は井戸の水を使用する、殊にこの二三日暑さが烈しい爲、それを飮む者が少くないが甚だ危險だ、市内の井戸は一般に淺く水質が劣等で、顯微鏡で檢ると大腸菌其他の雜菌がうよ〳〵してゐる、健康な者でも病氣となる場合がある、東京市衛生試驗所の柿澤所長は次の如く述べた。「最近市内の掘井戸に付て調査した所によると細菌の一番多いのは四谷で、平均一立方仙迷の中に一萬九千七百からゐた。淺草區の一萬六千五百五十、牛込の一萬四千九百八十九と云ふ順序で、市内で最も少い神田でさへ二千位ゐた、水道の水には一立方仙迷の中細菌は僅かに十五六しかない、その儘飮用しても差支ないけれど、細菌が二千以上もゐる井戸水を飮むのは危い大腸菌は河水より多くゐるから下痢窒扶斯等に罹る虞れがある、何故其麼に菌が多いかといふに、東京市内は土地がない爲、井戸が便所や下水の近くに在り、糞尿その他の汚れが流れ込むからである、傳染病の流行期に入る昨今、井水を飮む事は絶對に避けねばならない。」

○平民的食品研究

府立第一高等女學校にては物價暴騰の折柄平民的食料の實際的研究をなすとかいふことにて神田區内の小飲食店につき比較研究を試みたるに左の如き結果を得たりと、これが果して何かの參考にでもなるものか知らねど兎に角次の如き代價表を擧ぐ。

▲強飯屋　おこわ三つかみあつて一つが二錢で、お代が一人前六錢。

▲餅屋　一切れ一錢の餅が三つに三匁の赤砂糖がかけてあり、お代は一人前六錢五厘。

▲三好野(餅屋)　一切れ一錢の餅三片に四匁八厘の白砂糖をかけてあり、お代は六錢八厘。

▲三好野(同上)　大福餅四つで五錢六つ一皿が七錢五厘。

▲芋屋　フカシ芋が百八十匁でお代が八錢とある。

▲飯屋　外國米混入の飯が一杯で三錢、夫れを二杯平げて六錢、一杯一錢の味噌汁を二杯で二錢、しんこが一錢、總てこのお代は

九錢なれど自宅で六錢で出來る。

▲麵麭屋　一斤の約五分の四位しかない食ぱんに白砂糖五匁（一錢）をつけてお代が十錢五厘。

▲麵麭屋　一ツ一錢づゝで十四個あつて一人前の十四錢。

▲蕎麥屋　一杯五錢のうどんもり三つ食べて十五錢、これを自宅で拵へると八錢五厘で出來ます。

▲鮓し屋　四ツ五錢の稲荷ずしが十二個あつて一人前十五錢。

▲麵麭屋　一ツ二錢のジャムつきパンが八ツで一人前のお代が十六錢。

▲おでん屋　一杯三錢の茶飯を三杯食つて九錢、ちくわが四錢、しのだまきが二錢、がんもどきが二錢でお代は十七錢なるも自宅では九錢で出來ます。

▲海苔屋　一ツ一錢五厘の海苔まき十四で二十一錢なるも自宅では十二錢で出來る。

▲ミルクホール　一合六錢の牛乳二合で十二錢、一個四錢の二ツで八錢。

▲輕便料理　ビフテキ二十五錢、オムレツが十八錢、ココアが八錢、バタつきパンが四切れで十二錢。計六十三錢ですが自宅では三十八錢で出來ます。

○大學醫院看護婦

東京醫科大學附屬大學醫院看護婦講習所にては去る十五日第二十三回卒業式を擧行したるが本年度卒業生は總て百三十名なりし、尙ほ勤務上に於ける看護婦側の希望として昨年夏以來運動し居たる制度の改正も今回より實行せらるゝことゝなれり、看護婦を各病室に割當て輪番交代の方法をとることゝなりたるなりと。

○衞生的有害の玩具

東京市兒童校外取締聯合協議會に於ては、玩具中禁止すべき品目を調査研究し、之を（1）危險玩具、（2）道德上有害玩具、（3）衞生的有害玩具、（4）恐怖及び不快玩具の四種に分ち、個々名稱を指摘して之を禁止することゝなせり、就中衞生的方面から見た禁止玩具は左の如くなりき。

「パチンコ」、煙火類、鐵輪獨樂、空氣銃、弓矢、吹矢、鐵砲、西洋「マッチ」、鳶口、大正「スケート」、寫繪、「ゴム」風船、「ゴムホウズキ」、「クシヤメ」、藥、玩具「パイプ」、土人形。

○麥飯奬勵講演會

去月二十九日麴町區大手町大日本私立衞生會館に於て寺垣海軍中將等發起の下に麥飯奬勵大講演會あり高木兼寬、額田醫學博士其他數氏の講演ありたり。

○大阪の掃除隊編成

大阪市の玄關口を控へたる曾根崎署にては所轄内の

衞生組合をして有名有實の物たらしめんとて十日組合會を召集し衞生事項につき種々注意を促すと同時に新に掃除隊を編成するに決したるがその方法は

一、各組合は三十名の人夫を使用して一大掃除をなすこと。

一、各組合は役員五名を置き人夫の指揮をなすこと。

一、竹根崎署巡査五名人夫監督をなすこと。

とし毎日午前七時より午後五時まで(一)下水の掃除(二)汚穢物の取除(三)裝置品の整理掃除をなさしむる筈にて全隊を八隊に分ち日々管内全部の掃除を勵行せしむべしと。

廣告

○本會六月例會

去る六月十日午後一時半よりお茶の水高等女學校作樂館に於て本會例會を開き、醫學士樫田十次郎氏は「已に病と氣のつく頃には重き病氣の二三」と云ふ題にて實際上極めて必要なる諸種の疾患の初徴に就て平易に而かも詳細に說明せられ、疾病豫防の注意を與へられたり。次に田代博士は「義手足の進步」と題し、多數の圖書及び實物を供覽しつゝ目下歐洲大戰爭に於ける莫大なる負傷兵並びに癈兵救助の爲めに義手足の進步發達しつゝある實況を述べられたり。右終りて階下の別室にて茶菓の饗あり、四時過散會せり。當日の出席役員は左の如くなりき。

長谷川仲子　松井正子　濱尾作子　山口貞子
濱田拾子　天野多喜子　守屋千代子　鳩山春子
緒方悅子　古市幸子　小川孝子　近藤憲子
田村きよ子　(以上出席順)

○七月例會

去る八日午前十時よりお茶の水高等女學校作樂館に於て本會例會を開けり、但し當日は衞生講話なく、宇野彌太郎氏を講師として料理法の講習をなし、正午會食し、暫く歡談の後散會したるは二時頃なりき當日出席役員の重なる氏名は左の如し。

濱尾作子　田村きよ子　濱田拾子　緒方悅子

守屋千代子　宮本樂子　長谷川仲子　近藤憲子
天野たき子　鳩山春子　松井正子　岡田德子
高木鐵子　丹波貞子　岸澄子　（以上出席順）

○新潟支會地久節祝賀會

新潟支會にては去る六月二十五日例年の通り三婦人會聯合にて同市公園內階樂館に於て地久節祝賀會を開きたるが、出席者百餘名、午前十時開會、式後各種の餘興あり、一同歡を盡して散會したるは午後四時なりき。
尙ほ同支會にては市衞生會、慈善會と合同の上本月十四日より海水浴場を開設したる筈なり。

○入會者

新潟支會
○千田ルイ子紹介　通常　木川松枝子
○高橋忠子紹介　同　竹內ツタ子
同　出塚フミ子
同　舟崎カホル子

○轉居

麴町區より府下下澁谷七四五へ　村井君子
本鄉區より麴町區山元町三ノ五へ　恩田重信
和歌山より岐阜縣立大垣高等女學校へ　和田竹子
日本橋區より本鄉區駒込上富士前町五一へ　塚原時子
土佐より淸國上海北江糊路一號へ　久竹代子

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山木多穗子
同 松平芳子
評議員 入澤常子
同 濱田捨子
同 原みつ子
同 西舛子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 鵜原誠子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 小松いさ子
同 天野多喜子
同 菊池米子
同 宮本樂子
同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 三浦敬子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 武田貫子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 近藤憲子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵税壹錢
三冊（三ケ月分） 前金郵税共 金四拾五錢
十二冊（一ケ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁金 五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌購讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ購讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正七年七月十七日印刷
大正七年七月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本鄉區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本鄉區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本鄉區駒込林町百七十二番地 合資會社 杏林舍

發行所 東京市本鄉區駒込千駄木町五十番地 私立大日本婦人衞生會事務所 （振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本鄉區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 眞明堂
同市本鄉區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本鄉區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雜誌第三百四十二號 大正七年七月二十日發行

